



国立大学法人
和歌山大学

2022

地域連携プログラム活動報告書



Local Partnership Program (LPP)

地域が抱える課題を住民とともに発見し、

その解決方法を考える

和歌山大学観光学部

はしがき

和歌山大学観光学部における「地域インターンシッププログラム（LIP）」の取り組みは、2008年度に開始されて以降、これまでに166件のプログラムが実施され、延べ1800人以上の学生が地域での様々な活動を通じた実践的な学びの機会を得ています。現地を訪れ、地域の方々とともに課題に取り組むなど密度の濃い交流を続けた結果、なかには数年にわたる継続的なプログラムに発展する活動もみられるようになりました。学生の受け入れやプログラムの実施にご尽力いただいている地方自治体や関係諸団体の皆様のご支援とご協力に心から感謝を申し上げます。

さて本学部は、「観光経営」「地域再生」「観光文化」の3つの基本領域を軸として、これらの領域を融合的かつ横断的に学ぶカリキュラムに取り組んでいます。本カリキュラムにおいては、高度な専門性と現場での創造的実践力を獲得することを目標に、国際性を養う教育と国内外の地域の諸課題に向き合う実践型教育を重視しています。地域に関わり現場で起きている事柄を身をもって学ぶことができるLIPは、観光学部の実践型教育の一翼を担う取り組みとして重要な位置を占めてきました。

2020年度からは、新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るう中で、LIPにおいても、オンラインでの活動を中心とせざるを得ない状況となりましたが、地域内外の感染状況を見極めながら、ガイドライン等の十分な対策を講じた上で、可能な範囲での学外研修活動を実施してまいりました。コロナ禍での行動制限も徐々に緩和される中で、「地域に学ぶ」ことを柱とする本来のプログラムの姿を取り戻しつつあります。

さらに今年度からは、これまでのLIPの成果と経験を踏まえ、質の高い地域連携活動を持続的に展開するため、「地域連携プログラム（LPP）」として再出発し、新たに加わった学生主導型を含む19の多彩なプログラムを実施することができました。

LPPをはじめとする本学部の地域連携活動を、大学と地域の双方にとって実りあるものとするため、今後ともご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年3月

和歌山大学観光学部
地域連携委員会 永瀬節治

目次

はしがき	2
目次.....	3
1. LPP の概要とこれまでの歩み.....	5
1) LPP の概要	5
2) データでみる LPP の歩み	6
2. 2022 年度 LPP 活動報告.....	10
1) 和歌山県和歌山市	12
2) 和歌山県岩出市.....	14
3) 和歌山県紀の川市.....	16
4) 和歌山県海南市.....	18
5) 和歌山県海草郡紀美野町	20
6) 和歌山県海草郡紀美野町	22
7) 和歌山県有田市.....	24
8) 和歌山県有田市.....	26
9) 和歌山県日高郡美浜町	28
10) 和歌山県田辺市	30
11) 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町.....	32
12) 大阪府阪南市.....	34
13) 大阪府岸和田市	36
14) 大阪府岸和田市.....	38
15) 大阪府岸和田市.....	40
16) 和歌山県有田郡有田川町.....	42
17) 広島県広島市、香川県さぬき市	44
18) 和歌山県有田郡広川町	46
19) 和歌山県和歌山市	48
3. 2022 年度 LPP 合同活動報告会の実施	50

1) 発表について.....	50
2) 交流会について.....	50
3) 発表の実施報告.....	53
参考資料.....	63
1) LPP の沿革.....	63
2) これまでの LIP/LPP 活動地域と活動テーマ一覧.....	66

1. LPP の概要とこれまでの歩み

1) LPP の概要

和歌山大学観光学部では、学部創設の2008年より、和歌山県内及び大阪南部の市町村などの協力のもと、地域が抱える課題を地域住民とともに発見し、その解決方法を考える「地域インターンシップ・プログラム」(通称：LIP)を実施してきた。本プログラムは、地域活性化に関心をもつ学生が、現地に足を運び、地域住民と連携することによって地域の課題や調査活動に取り組むもので、「学生と地域を活性化したい」、「地域の魅力を発見したい」といった地域からの提案を受け、毎年複数の活動を実施してきた。

LIPに参加する学生は、学内の事前学習や現地視察を通して地域の実情を学び、さらには現地調査や地域住民との交流、イベントの企画運営などを通じて、それぞれの地域の真の魅力や課題と向き合っていく。具体的なプログラムとしては、観光施設の職員や利用者への聞き取り、宿泊施設や農家民泊のモニター、集客イベントの企画運営、観光資源調査やマップ作成、就業体験などに取り組んできた。「この地域にはどのような観光資源があるか」、「埋れている観光資源はないか」、「観光資源が有効に活用されているか」、「どうすれば地域が元気になるか」。こうした課題に対して、地域住民は生活者の視点から、学生は「ヨソ者」の視点から意見を出し合い、ともに活動をしていく。このような対話や活動が、双方にとって新たな気づきの機会となることもこのプログラムの特徴である。

LIPは、こうした相互作用を通じて、地域住民は「ヨソ者」の力を活かしながらより自立的なまちづくり活動を行う力を、そして学生は地域住民の思いを理解しつつ、地域活性化の方法を提案できる力を養い、地域を支える人材として活躍することを目指し、2021年までに計166件のプログラムを実施し、延べ1,800名以上の学生が参加した¹。

2022年度からは、LIPの取り組みの中で見えてきた成果と課題を踏まえ、プログラムの持続可能な運用と質的向上を両立させるため、「地域連携プログラム (Local Partnership Program, 通称：LPP)」へと名称を変更し、新たなスタートを切った。

LPPでは、観光学部教員と受入地域が連携して活動計画を作成し、学生を募集して活動を実践する「連携教育LPP (通称、Lゼミ)」と、学生が主体となり、地域と連携しながら活動を実践する「学生主導LPP (通称、L活)」の2種類がある。Lゼミには、和歌山県内及び大阪南部の市町村など、地域から活動内容を公募する「地域公募タイプ」と、観光学部教員が地域での研究活動等の一部をプログラム化する「教員申請タイプ」の2つの実施形態がある。本プログラムでは、観光学部の教育カリキュラムの一環として、地域住民と連携した現場での学びを通し、地域の観光振興および地域再生の実践を学ぶことのできる内容を含むことを実施の条件としている²。

¹ 2021年度までのLIPの取り組みについては、観光学部ホームページを参照。

(<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/internship/lip/index.html>)

² Lゼミは、単位として認定されている。単位取得のためには事前事後学習を含めて30時間以上の活動が求められ、活動時間に応じて、「基礎自主演習」または「プロジェクト自主演習」の単位が認定される。

2) データでみる LPP の歩み

観光学部の LPP は、前身の LIP から数え、15 年にわたり実施してきた。ここでは、これまでの LIP および LPP の歩みについて、データをもとに示してしていく。

表 1 は、2008 年度以降の年度別実施プログラム数を示している。年度ごとのプログラム数にはばらつきがあり、最多 21 件（2016・2021 年度）、最少 3 件（2010 年度）となっている。2011 年度からは、観光学部専任教員からの申請により実施される申請タイプが創設され、プログラム数が安定するとともに幅広い活動が可能となっている。さらに、2022 年度からは学生主導型のプログラムである L 活が新設された。

表 1 年度別プログラム数

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
Lゼミ	6	8	3	4 (1)	11 (5)	5 (2)	10 (3)	15 (6)	21 (7)	19 (4)	13 (3)	14 (4)	16 (3)	21 (3)	17 (2)	185 (43)
L 活	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
合計	6	8	3	4	11	5	10	15	21	19	13	14	16	21	19	187

※カッコ内は教員申請タイプのプログラム内数

次に、図 1 は年度別の参加学生数を示している。参加学生の延べ人数は 2014 年に 100 名、2016 年には 200 名を超えるなど、増加している。これは実施プログラム数が増加したとともに、プログラムあたりの定員規模の拡大が起因していると考えられる。ただし、全プログラムが拡大傾向を示しているわけではなく、現状では大規模のものと小規模のものが並存する状態にある（2022 年度は最少 4 名、最大 23 名）。この点は、プログラムの内容など、地域の課題やニーズに即したかたちで活動が実施されていることが影響している。

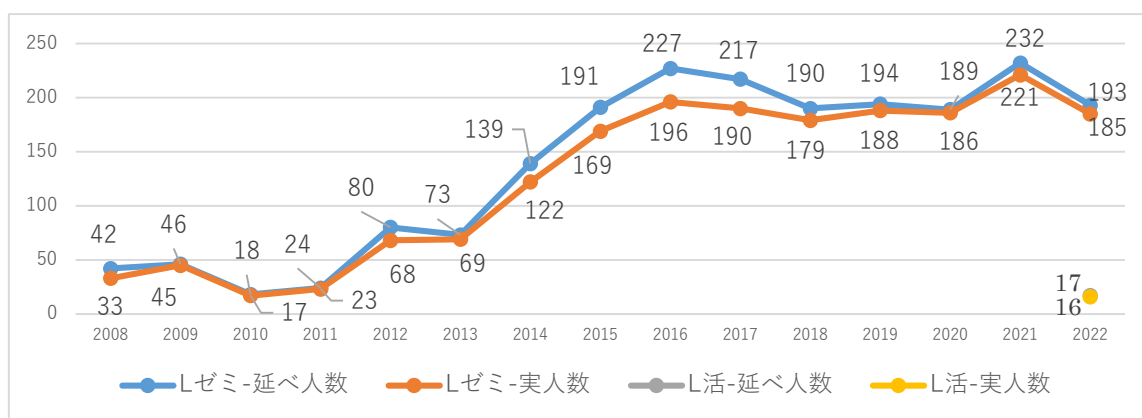


図 1 年度別参加学生数

表2に示した通り、Lゼミの学年別参加学生数は1回生がもっとも多い。低学年次から地域での活動に関心を持ち、積極的に地域と関わりたいと考える学生が増加していることを示している。このような傾向は近年みられるようになったもので、図2のように、プログラム創設初期は2、3回生の参加が中心であった。

また、4回生の割合の増幅がみられるようになったことも近年の特徴である。2022年度から新設のL活では3回生の参加が最も多く、これは、単年度のプログラムではなく、同様の地域において継続的に活動を実施するプログラムが増加していることが要因であると推察される。

表2 学年別参加学生数

			1回生	2回生	3回生	4回生
Lゼミ	延べ人数	2,074	766	708	441	159
	実人数	1,898	731	642	376	149
L活	延べ人数	17	4	4	6	3
	実人数	16	4	3	6	3

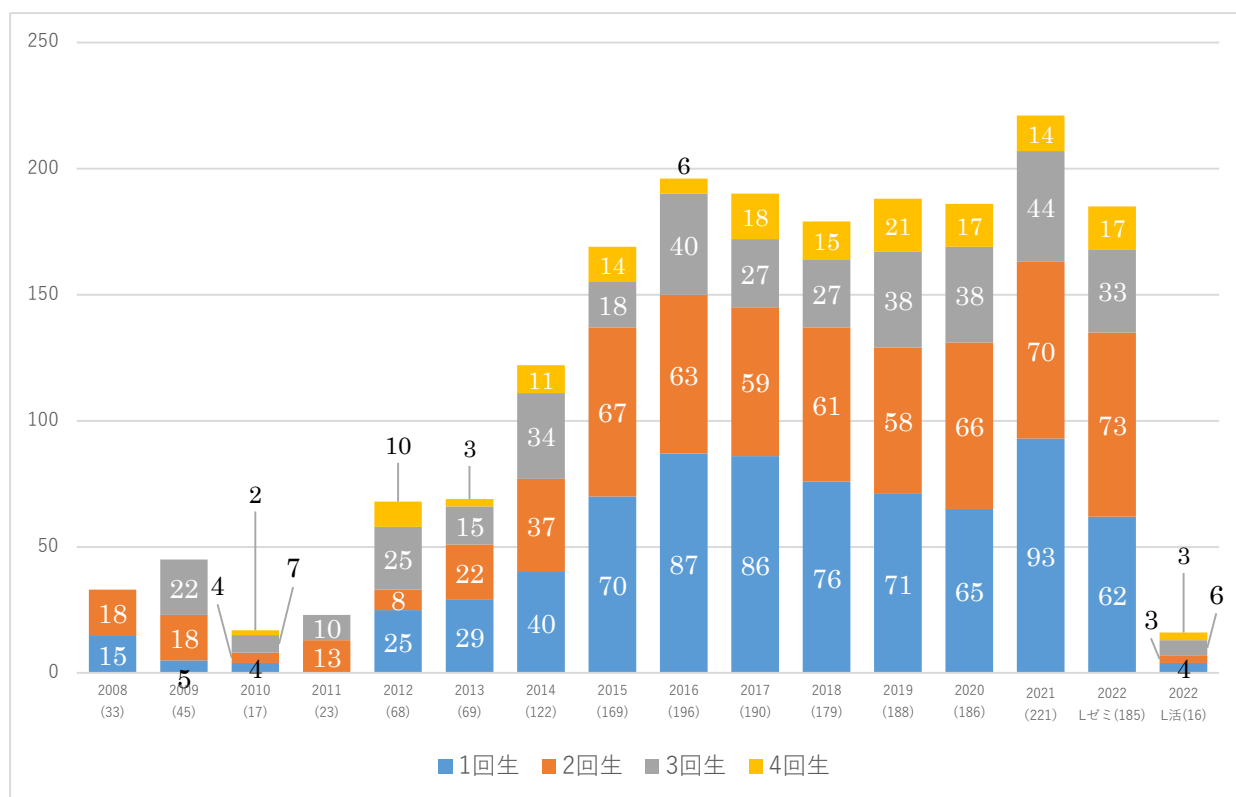


図2 学年別参加学生数の変遷 (実人数ベース)

図3に示すのは、プログラムあたりの平均参加学生数である。先に述べた定員規模の拡大によりプログラムあたりの平均参加学生数が増加傾向であったが、2022年度は全てのプログラムのうち半数が10名以下のプログラムとなるなど、近年は小規模で実施されていることもあり、徐々に減少傾向にある。

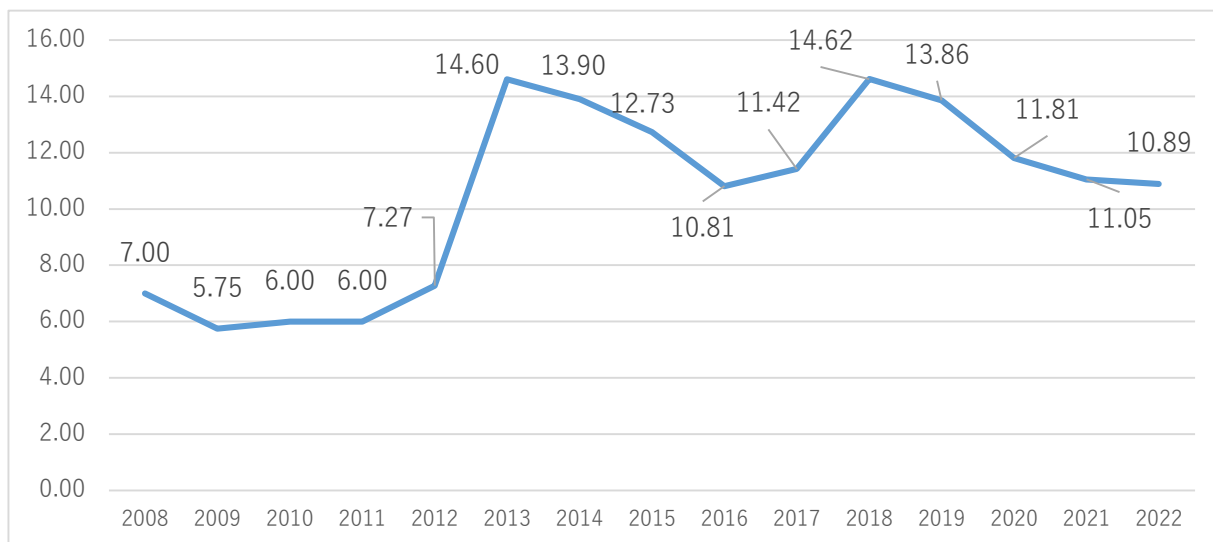


図3 プログラムあたりの平均参加学生数（延べ人数ベース）

また、図4に示すように、プログラム数および定員規模が拡大したことにより6期生以降、参加者数は飛躍的に増加している。14期生以降は、感染症拡大の影響により、2021年度までの活動に制限があったが、2022年度は地域での活動回数も増加していることから、来年度以降の参加者数は、より増加すると予測される。

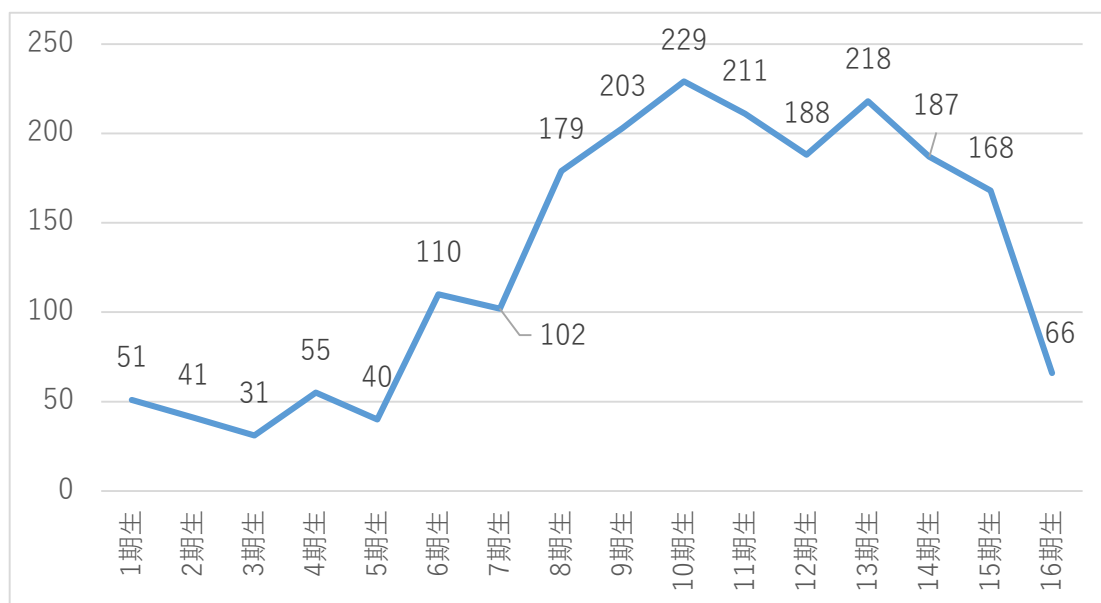


図4 期生ごとの参加者数の推移

以上のように、開始から15年となる本プログラムは、参加学生数ならびにプログラム数が安定していることから、参加学生および地域からのニーズを汲み取った活動が展開されているとみることができる。しかしながら、今後も継続的に本プログラムを実施するにあたっては、それぞれの取り組みの質の向上と学生自身が学びをより深めることができるプログラムを提供することが求められている。

(文責：観光学部 地域連携委員会)

2. 2022 年度 LPP 活動報告

2022 年度は、19 プログラムが実施され、延べ 210 名の学生が地域で活動を行った。
以下に示すのが今年度の実施プログラムの一覧である。

■ Lゼミ（連携教育 LPP）地域公募タイプ

No	地域名	テーマ	参加 学生数
1	和歌山市	加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興	18
2	岩出市	道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査及び利用促進企画	10
3	紀の川市	紀の川スイーツの開発	15
4	海南市	交流・関係人口増を目指した エリア体験型観光コンテンツ開発	9
5	紀美野町	きみのげんきマップの作成	7
6	紀美野町	地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生	20
7	有田市	多世代で取り組む ICT 講習を通したまちづくり	4
8	有田市	青みかん（摘果みかん）の価値を上げる	15
9	美浜町	アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信	15
10	田辺市	「林業×地域」の再発見による地域将来ビジョン策定とシナリオプランニング	8
11	那智勝浦町	地域の文化や風習の体験から地域住民と触れ合い、 地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。 興味関心に応じた地域のプログラムを通じて知見を深め、 今後に繋がる価値の創出をめざす。	4
12	大阪府阪南市	古代米を活用した商品開発、PR に関して。 「古代米をおいしく食べる」	6
13	大阪府岸和田市	港湾エリアにおける持続可能なまちづくり (岸和田港まつりの企画・運営)	9
14	大阪府岸和田市	景観資源活用による景観意識の向上と 地域の賑わい・活性化への貢献	10
15	大阪府岸和田市	岸和田市とアドベンチャーワールドが創る 未来の Smile とは	8

■ Lゼミ（連携教育 LPP）教員申請タイプ

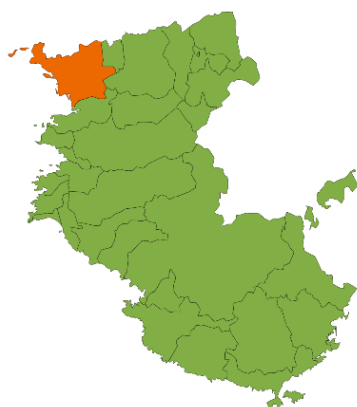
No	地域名	テーマ	参加 学生数
1	有田川町	学生との協働による棚田保全・集落支援活動	23
2	広島県広島市および 香川県さぬき市	瀬戸内カレッジ 2022	12

■ L活（学生主導 LPP）

No	地域名	テーマ	参加 学生数
1	広川町	ツーギー谷のお花畑の活用を通じた 津木地域の活性化を考える	9
2	和歌山市	雑賀崎の観光スポット（レモンの丘）整備と 活用のための情報発信	8

和歌山県和歌山市

加太・磯の浦エリアにおける 観光映像を活用した地域振興



【活動の基本情報】

参加学生数：18名

(1年生：11名、2年生：6名、3年生：1名)

活動期間：2021年5月～

担当教員：木川剛志

1. 活動実施の経緯

加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興として2年目の事業である。和歌山市とその提携先の南海電気鉄道株式会社との共同の事業である。当初求められたことは、加太・磯の浦エリアにおける様々なイベント事業に参加し、それに関連する映像や画像をInstagramなどに投稿することが求められてきた。ただ、1年目からもそうであるが、民間企業としてCOVID-19の影響下でイベントの開催は困難であり、イベント事業への参加を中心とした本プロジェクトは社会情勢に大きく影響される。2年目はCOVID-19の影響は少ないだろうとの想定の下でスタートした。

2. 活動の内容

4月当初から1年目よりも加太・磯の浦地区でのイベントがほとんどなかった。夏以降に期待されたが、夏の到来とともに、新型コロナウイルス感染症の第7波が到来し、それ以降もイベントはほとんど企画されなかった。ただし、観光業の再開とともにモニターツアーなどへの参加などを打診されたが、日程が学生たちとほとんど合わなかった。そこで自主企画として、2022年10月16日に加太でInstagramのリアル映像制作のワークショップを行った。9名の参加があり、半日にわたって、加太を散策して撮影を行った。その後もクリスマスや鯛祭りなどのイベントがあったが、学生の日程が合わず、ほとんど参加できなかった。

3. 活動を通じて

今年も厳しい活動となった。やはり春の時期の活動の立ち上げの時に、意識を共有して課題に向けた解決について語り合わない、その後、参加の打診があっても多くが参加しないという事態となった。ただ、Instagramを含めた映像について、学生たちは高い関心があるので、技術ワークショップを重ねることも重要であることを感じた。

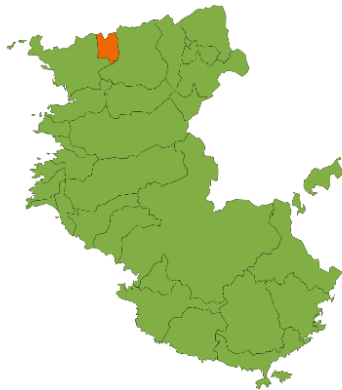
4. 成果ポスター



和歌山県岩出市

道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者促進調査

及び利用促進企画



【活動の基本情報】

参加学生数：10名

(1年生：2名、2年生：4名、3年生4名)

活動期間：2018年5月～2023年1月

担当教員：永井隼人

1. 活動実施の経緯

和歌山県岩出市は根来寺や和歌山県植物公園緑花センターなどを有し、また近年では道の駅ねごろ歴史の丘を中心に観光振興に力を入れている。しかし、観光客の市内での滞在時間が短いこと等が課題となっている。岩出市 LPP では 2019 年度から岩出市産業振興課、ねごろ歴史の丘管理協会と連携し、岩出市の抱える課題に取り組んでいる。2019 年度は道の駅での利用者調査、スタンプラリーの開発、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンラインでの活動（文献調査、事例研究、SNS 分析）を中心に、道の駅での調査も一部実施した。2021 年度には、前年度に実施した SNS 分析の結果を学術的にまとめなおし、7 月に開催された第 10 回観光学術学会学生ポスターセッションにて発表、優秀賞を受賞した。プログラム最終年度となる 2022 年度は、観光 PR 動画の制作及び効果検証を主な活動とし、関係機関との連携を継続しながら活動を行うこととなった。

2. 活動の内容

道の駅を拠点とし、根来寺など周辺を巡る観光 PR 動画（ショート動画）の制作を行った。制作した動画は、既存の観光発信コンテンツであるパンフレットと比較し、その効果の検証を行った。分析結果は第 11 回観光学術学会学生ポスターセッションにて発表し、最優秀賞を受賞した。

3. 活動を通じて

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現地での活動機会が少なくなりましたが、少人数での活動やオンラインでの活動を継続するなど、道の駅をフィールドに活動を継続することができた。参加学生は地域の方々と連携しながら、企画を考え、動画制作に挑戦するなど、地域をフィールドに学ぶ貴重な経験を得ることが出来た。

4. 成果ポスター

IWADLEPP

和歌山大学観光学部 岩出市LPP 2022年度報告

道の駅の利用調査および利用促進企画

私たちは和歌山県岩出市にある道の駅「ねごろ歴史の丘」を対象に、道の駅を拠点とした観光振興をテーマに活動を行ってきた。今年度でプログラム最終年度となる。

岩出市について

人口：54,215人(2022年末時点)
参考：海南市 4.8万人, 橋本市 6.0万人
面積：38.5km²
(市役所を中心に半径2.5km)

道の駅について

道の駅「ねごろ歴史の丘」
2017年に開業
近隣には根来寺に関連した史跡が多数存在しており、観光拠点としての活用が期待されている。

2019年	道の駅の利用実態者調査, スタンプラリーを用いたイベント企画
2020年	道の駅に関する勉強会, SNS投稿調査, 自動車のナンバープレート調査
2021年	SNS投稿分析, 観光学術学会での発表
2022年	地域を散策するショート動画の制作・効果分析, 観光学術学会での発表

地域散策ショート動画の制作と効果分析・発表

今年度の活動として、根来寺などの史跡を道の駅を拠点として巡る、観光散策動画を制作。近年SNSでも幅を広げている15秒・30秒などの「ショート動画」に着目し、その効果を既存の観光発信コンテンツであるパンフレットと比較して検証した。分析の結果は、観光学術学会の学生ポスターセッションにて発表し、昨年度"優秀賞"に引き続き、"最優秀賞"を受賞した。



発表したポスターがご覧いただけます。

先行研究分析動画撮影・編集効果アンケート効果分析・発表





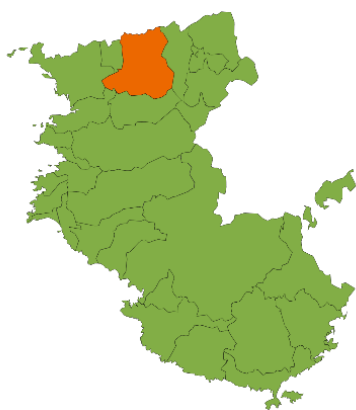
和歌山大学
wakayama
univ.

14期：五味 晴香 / 杉本 情 / 諏訪 葉瑠奈 / 宮井 凜晴
15期：東 美玖 / 淡路 颯馬 / 上山 歌奈子 / 西嶋 大喜
16期：坂本 七海 / 血澤 彩夏 担当教員：永井 隼人

お世話になりました、岩出市役所・道の駅・地域の皆様に感謝申し上げます。

和歌山県紀の川市

紀の川スイーツの開発



【活動の基本情報】

参加学生数：15名

(1年生：6名、2年生：5名、3年生：4名)

活動期間：2018年5月～2023年1月

担当教員：竹田明弘

1. 活動実施の経緯

紀の川市 LPP では、これまでフルーツを用いたスイーツを提携企業、店舗と開発、販売した。本年度はこれまでの活動を更に発展させ、紀の川市の知名度を上げる活動を目的に、スイーツだけでなく紀の川市の有名店舗と共同した商品開発企画を実施した。

2. 活動の内容

本活動は、参加希望した学部生、紀の川市役所、協力店舗の3者の協力のもと実施した。本年は、株式会社 九重雑賀、農業生産法人 有限会社柑香園（観音山フルーツガーデン）、藤桃庵、株式会社 近鉄百貨店と合同で、それぞれの商品を持ち寄り、紀の川セットとして1組の商品を完成させ、お中元として販売することを目的とした活動を実施した。株式会社 九重雑賀とは「いんでぐら」という名称の日本酒を、有限会社柑香園とは「のうかちつぶす」「なちゆるん（はちみつ増量）」を、藤桃庵とは「まぜるジャム」を共同で商品開発した。また、それぞれの商品のラベルデザイン、お中元箱のデザイン、共通ロゴも作成した。本セットは、令和5年度 夏のお中元で近鉄百貨店から発売を予定しており、2023年2月末に完成、広報活動については4月以降に実施予定である。また、昨年から継続していたカフェムリーノとのチーズケーキ開発も、2022年4月末に商品が完成し、発売した。

3. 活動を通じて

昨年度と比較して活動できる範囲は増大したが、本年も COVID-19 感染拡大防止のため、対面活動に一定の制限があり、円滑な活動の実施は困難であった。また、今年度は紀の川市、株式会社 近鉄百貨店との共同というだけでなく、複数の企業、店舗で一つのセット商品を開発するという活動であったことから、学生も含んだ調整作業に苦労した。ただ、紀の川市との商品開発活動が5年経過し、その活動の範囲や規模も大きくなってきている。これは、非常に喜ばしいことである。これも紀の川市、ならびに地元の企業や店舗のご尽力、ご協力の賜物である。そして、これまでの学生の努力の成果でもある。本活動にはまだまだ課題が多いが、少しでも紀の川市のブランド化に貢献できるような活動を実施していきたい。

4. 成果ポスター

紀の川LPP -2022年度活動報告-

紀の川市は和歌山県北部に位置し、北は大阪府、西は和歌山市に隣接しています。また、温暖な気候と紀の川がもたらす肥沃な土壌を最大限に利用して、野菜、果物など多種多様な農作物を生産しています。はっさく、いちじく、柿、キウイフルーツ、いちごなど四季折々の果物が収穫できる全国有数の果物産地です。今年度は昭和9年9月に設立された大阪市に本社を置く、百貨店・スーパー・コンビニ業界に所属する企業である近鉄百貨店様とのお中元開発に取り組んでいます。近鉄百貨店様とのお中元企画第2弾として「藤桃庵様」「観音山フルーツガーデン様」「九重雑賀様」の3社と共同開発でお中元セットの中に入れる商品を開発しています。

1 回生～藤桃庵とコラボ～



* 1月24日現在のデザイン案である

1回生は藤桃庵様と共にジャム製作に取り組みました。ジャムは「混ぜるジャム」をテーマとし、いちごははっさく、みるくの3つのジャムを製作しました。果物そのものの味ではなく、それぞれいちごには梅酒、はっさくにはコアントロー、みるくにはバナナを香り付けとして使用し、より深みのある味に仕上げました。様々なお酒を使用したものを試食した上で上記の味に決定致しました。見た目味にこだわり、ジャム単体でも混ぜても楽しめるジャムに仕上がっています。

2 回生～観音山フルーツガーデンとコラボ～



2回生は観音山フルーツガーデン様と共同でのうかチップスとなちゆるんぜりいの開発を行いました。なちゆるんぜりいは既存の商品を基にし、主にパッケージデザインの変更を行いました。また、はちみつを増量しパッケージデザインのレモンはそのまま残し、はちみつを上から垂らしたデザインに変更しました。パッケージにはちみつを増量したことも記載し、ほのかな甘みが加わったことによるうまみも強調しています。のうかチップスは、メンバーの案を基に、黒柿をチップス状に乾燥させたものに仕上げました。また、ターゲットを日本人に設定した上でパッケージ作りの際に意識しました。

3 回生～九重雑賀とコラボ～



3回生は九重雑賀様と共同で日本酒の開発を行いました。九重雑賀様の人気商品である純米吟醸辛口を使用し、オリジナルのパッケージを作成しました。日本酒は九重雑賀様のご協力のもと、10種類以上を試飲した上で、今回の商品コンセプトに最適なものを選びました。パッケージは百貨店やECサイトなどからデザインを研究し制作しております。自信をもってお届けできるものになりましたので、お中元が販売された際にはぜひお手に取っていただければと存じます。

* 1月24日現段階ではどちらのデザインにするかは定まっていない

和歌山県海南市

交流・観光人口増を目指した

エリア体験型観光コンテンツ開発



【活動の基本情報】

参加学生数：9名（1年生：3名、2年生：4名、3年生2名）

活動期間：2020年6月～2023年1月

担当教員：八島雄士

1. 活動実施の経緯

「交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発」をテーマとしている。活動地である海南市下津町大崎地区には「げんき大崎館・かざまち」が設置（H27年）されて以来、毎週土曜日の朝市や各種体験交流イベントの開催等、地域内経済の循環をはじめ、地区内外の住民にとって貴重な交流の場を提供してきた。しかしながら、著しい高齢化の進行により、交流人口・関係人口を増やすことが急務であるとの認識から、大学生等「よそ者・若者」の目線から地域の資源を再発見することの必要を痛感し、学生と協働でのプロジェクトの立ち上げが企画された。

2. 活動の内容

今年度は継続5名（3年生2名は相談役）、新規4名（1年生3名）が活動に参加した。活動規制が昨年より緩和され、活動しやすくなった。7月の交流イベントでは、メニュー作りから関わり、ブルーベリー・マリトッツォ作り体験を担当した。また、2年生は提案した周遊マップづくりに、大崎のゲストハウスに宿泊をしながら取り組んだ。1年生は「大崎を知る」をテーマに、空き地掃除の手伝い、海釣り体験などの活動をした。はじめに大崎の方々と協力しながらイベント運営をしたことで、1年生もコミュニケーションをとりやすい環境ができた。その後、オンラインミーティングや現地訪問しながら意見交換する中で出てきたアイデアを実際にトライしてきた。

3. 活動を通じて

地域の方々から「今年は活動できる機会が増えてよかった」、「学生の視点で、楽しいと思うことを実践し、来年度も新たな観光のコンテンツを発見してほしい」との意見をいただいた。次年度に向け、深夜の星空や早朝の海辺などに目を向け、これらを発展させ、弁天島等の新たな場所や、周遊マップをより詳しくすることなどを目標に活動したいと考えている。

4. 成果ポスター



長谷川珠希③ 平野瑞穂②
 武子遼希② 金田杏平①
 佐野穂奈美② 若井泰斗①
 藤田理瑚② 牛丸愛帆①
 番場麻帆② 八島雄士先生

【基本情報】

★海南市とは
 海南市は和歌山県の北西部沿岸に位置する人口約5万人の市。
 ★活動状況
 私たちは海南市の中でも北西にある大崎地区を主な活動地としています。
 今年は昨年よりも規制が緩和されたということもあり、現地訪問を数回行い、
 地域の方々と交流を深めることができました。
 ★活動メンバー
 3年生2人、2年生4人、1年生3人の計9人で活動しています。

大崎かぎまち
 土曜朝市



【活動内容】

7月：ブルーベリーマリトッツォづくりのイベント開催

私たちメンバーは参加者に材料や道具を提供し、作り方を教えました。
 ブルーベリーは大崎の畑で育てられたものであり、当日参加者自身が
 ブルーベリー摘みをしてそれを材料として使用しました。
 材料、道具の用意や集客などは大崎の方々と協力して行いました。



10月：大崎地区に宿泊、周遊マップ作りへ

私たち2回生は複数回の訪問や大崎地区の宿泊施設「百船入」に宿泊し
 実際に地区の訪問者になることで、現在の大崎を「外から見る」ことを
 中心に活動しました。深夜の星空や早朝の海辺などの新しいコンテンツの
 発見のほか、地域の方々や夜ご飯をいただいたりなど交流を深める
 機会にもなりました。これらの成果は周遊マップという形で
 広報活動にもつなげていく予定です。

11月：1回生を中心とした現地訪問、さらなる魅力発見

私たち1回生は「大崎を知る」ということをテーマに活動しました。
 空き地掃除のお手伝いや海釣り体験をさせていただくなかで大崎の魅力
 を発見することができたように思います。今年度の活動では、大崎の方々
 のご厚意に甘えてしまっていた部分が多かったように感じるため、来年度は
 地域に還元できるような活動を計画したいと考えています。



【地域の方々の声】

「はじめはコロナ禍で中々活動ができなかったが、今年から活動
 ができる機会が増えてよかった。」「学生の視点で、楽しいと思う
 ことを実践し、来年度も新たな観光のコンテンツを発見してほし
 い。」など、地域の方々からの期待のお言葉をいただきました。



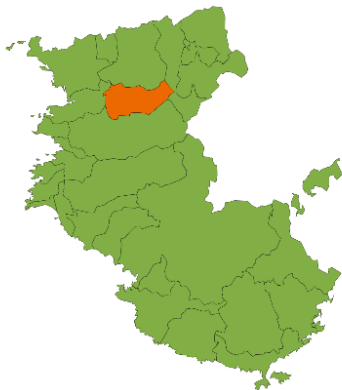
何時も温かく向かい入れてくださり、協力して
 くださる皆さんありがとうございます！

【今後の展望】

来年度は、オンラインでの交流などを増やし、大崎の方と学生が意見を交換する機
 会を増やしたいです。今年は、主に現地訪問を行いました。企画や準備を1から
 行ったイベントは多くなかったです。来年度は、私たち学生が企画や準備の段階
 から計画し、今年度よりさらに能動的に活動したいです。来年度は、大崎の弁天島を
 利用したコンテンツを考えたり、周遊マップの内容をさらに詰めたりする予定です。

和歌山県海草郡紀美野町

きみのげんきマップの作成



【活動の基本情報】

参加学生数：7名（1年生：3名、3年生：4名）

活動期間：2015年4月～2023年1月

担当教員：永瀬節治

1. 活動実施の経緯

紀美野町では、令和2年度より地域住民に地域の強み・魅力を再度認識してもらい、地域ならではの情報を共有し、それらを手がかりとした町内の散策やコミュニケーションのツールとなる「げんきマップ」の作成を目標とした活動に取り組んできた。これまでに、住民を対象としたアンケート調査を行い、居住歴や町への愛着、地域活動等について把握するとともに、マップ作成に向けた町内の地域資源等の視察や、地域サロンでの交流を行なった。

2. 活動の内容

今年度は計3回（8,10,11月）の現地でのフィールドワークを実施し、昨年に引き続き町内の見どころや店舗等の視察を行うとともに、それぞれの場所で出会った地域の方々の声を把握した。また2カ所の地域サロン（安井サロン、サロンにじの里）も訪問し、地域の高齢者の方々との交流も行うことができた。

これらの情報収集を経て、掲載するスポットやマップのデザイン、レイアウト等について学内での定例ミーティング等で検討を行ない、「紀美野げんきマップ」を完成させた。同マップは紀美野町が発行するガイドブックに綴じ込まれる形で町内に配布される予定である。

3. 活動を通じて

本プログラムは今年度が最終年度となり、テーマに掲げられたマップの完成までのプロセスを無事に終えることができた。コロナ禍により2年目までは十分な現地活動が行えなかったが、前述の通り今年度は現地を訪れる機会が増え、学生たちは自然豊かな山々や地域の素材を生かした店舗、公園や歴史的スポットなどの紀美野町の地域資源を体感するとともに、地域サロン等でさまざまな地域の方々と交流することができた。それらの実体験から得られた気づきや学生たちなりの紀美野町への思いが、マップを通じて地域の方々に少しでも伝わることを願いたい。

4. 成果ポスター

和歌山大学 × 紀美野町

きみの げんき マップ

LIP

2022年度
活動報告

活動目的

今年度は三回、現地実習を行いました。
町民の方々に全面的にサポートしていただき、紀美野町の素敵な自然、施設、商店、そして人々に直接会うことができました。また、紀美野町の抱えている課題や町民のリアルな声も、実際に訪れたからこそ知れたと思っています。改めて、ご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。このマップ作りを通して皆様に出会えたことを嬉しく思います。

MEMBER

3年 安藤夢乃、石関萌乃、岩本彩花、森島菜月
1年 岡本和歌子、溝端咲紀、龍暁弘

今年度の活動

定例ミーティング

週に1~2回ほど、オンラインと対面を合わせたハイブリッド型の定例ミーティングを行いました。フィールドワークの行き先やマップの構成など、全員の意見を取り入れながら学生間で話し合いを進めて行きました。地域の方とzoomを繋ぎ、地元の人し知らないような、紀美野町の隠れた名所について教えていただくこともありました。

現地実習

今年度は三回、現地実習を行いました。
町民の方々に全面的にサポートしていただき、紀美野町の素敵な自然、施設、商店、そして人々に直接会うことができました。また、紀美野町の抱えている課題や町民のリアルな声も、実際に訪れたからこそ知れたと思っています。



サロン訪問

今年度、私たちは「安井サロン」と「サロンにじの里」という2つのサロンに参加させていただきました。この2つのサロンに参加させていただき、紀美野町の魅力を改めて感じることができました。地域の方々はとても元気で、初めてサロンに参加した私たちのことも温かく迎えてくださいました。このサロン訪問を通して、紀美野町についてより多くの人に知ってもらいたいと強く思うようになりました。

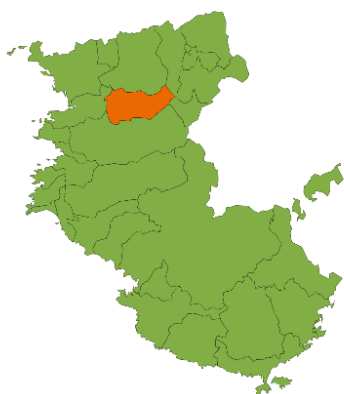
今年度の活動を終えて

今年度は、最終目的である「きみのげんきマップの完成」を達成するために1年間活動してきました。具体的には、定例ミーティングや、3度の現地実習、マップの作成を行いました。
今年度は、昨年度よりも現地実習に行くことができ、現地の方々と話す機会も多くありました。その経験から、紀美野町の魅力をさらに知ることができた1年となり、マップ作りに活かすことができたと考えています。

21

和歌山県海草郡紀美野町

地区×学生による観光・文化・交流情報発信と 棚田の再生



【活動の基本情報】

参加学生数 20 名

(1 年生：6 名、2 年生：5 名、3 年生：4 名、4 年生 5 名)

活動期間：2018 年 4 月～

担当教員：佐野楓

1. 活動実施の経緯

小川地区は公民館を中心に文化活動が盛んである。伝統芸能の「坂本獅子舞」「梅中傘踊り」等の活動に携わる方々が多く、ボランティア精神も旺盛で、地域活動に非常に熱心な土地柄である。しかし、高齢化や少子化が進み、地域活動への参加者が徐々に減少しているのも現状である。他地区と比べ、比較的移住者が多いため、地域活動においても相互協力を行っている。この「地元目線」と「外の目線」の良いところ取りで、地域の活性化に繋がりたいと考えている。

2. 活動の内容

今年度の活動では、棚田をはじめとする小川地区との関わり方を再確認した。LIP から LPP へと制度が変わった中で、従来のように地域から提案いただく形ではなく、学生が自ら進んで活動内容を決める仕組みづくりを行った。昨年度の活動で築いた地域との繋がりのもとで地域の方々との意見交換を行い、来年度以降の活動方針を決定した。また、棚田での活動やイベントへの参加を通して、役場の方々や地域おこし協力隊の皆さんをはじめ、中田の棚田再生活動に携わっている方々との交流を行った。そのほか、次年度の中田の棚田再生プロジェクトの活動方針「見せる」を踏まえ、ビューポイントに設置する看板を丸太から作成し、景観づくりに貢献した。次年度以降は、「棚田が抱える課題の解決に向けて」を活動方針として掲げ、地域の方々と協力しながら取り組むとともに、紀美野町小川地区の魅力を発信していけるような活動を行っていく。

3. 活動を通じて

今年度の活動では、地域の方々との話し合いの中で、様々な課題が浮き彫りとなった。その中には、私たちの目には見えなかったものも見受けられた。現地で活動を行うだけでなく、話し合うことの重要性を実感した。本年の経験を活かし、次年度以降の活動を行っていききたい。

4. 成果ポスター

きみの

紀美野町小川LPP

地区×学生による観光・文化・交流
情報発信と棚田の再生

ここが 私のアナザースカイ。

紀美野町小川地区

和歌山県の北部に位置する紀美野町。その中でも壮大な自然に溢れる小川地区。中田の棚田をはじめとした観光地が存在します。近年、その自然に魅せられ、多くの移住者が訪れるようになっていきます。

小川LPP

私たちは3回生4名、2回生5名、1回生6名で活動しています。学生視点での地域振興を目標とし、現地の方々との意見交流などを行いながら、地域の課題解決に向けて活動しています。

2022年度の主な活動

- 中田の棚田 再生活動
棚田内の草刈り、不要な木材や竹の撤去、焼却など、景観維持のための活動を主に行いました。
- イベントへの参加、運営補助
田植えイベントに参加しながら、広報用の写真を撮影するなどイベント運営の補助を行ったほか、リポートレッキングや棚田deキャンプ等のイベントにおいても、運営補助を行いました。
- 中田の棚田 看板制作
棚田を一望できる場所に設置する看板を制作しました。切り出した丸太をバーナーで焼いて防腐処理した後、スプレーで文字を塗装しました。
- 宿泊研修
古民家を改修した宿泊施設「風の森」で宿泊研修を行いました。地域の方々と意見交換を行い、今後の活動方針に関して話し合ったほか、メンバー間の親睦を図る機会にもなりました。



2023年度の活動方針 ～棚田が抱える課題の解決に向けて～

- 景観維持への対策
棚田を一望できるビューポイントへのゴミの投棄が以前からの問題となっています。そのため、観光学部での学びを活かしてゴミを減らす工夫を考え、実行し、ゴミの投棄ゼロを目指していきます。
- 棚田における作業人員不足の解消に向けて
現在、棚田では、農作業を行う人員が不足しています。そのため、新しい事業を始めることが難しくなっています。また、新たな作業人員の育成に時間を割くと、農作業が滞り、景観に支障が出るのが考えられます。そこで、LPPが実際に行っている農作業等のマニュアルを作成し、作業の効率向上と作業人員不足の解消を目指します。

小川LPP SNS



Twitter

Instagram

Facebook

和歌山県有田市

多世代で取り組む ICT 講習を通したまちづくり



【活動の基本情報】

参加学生数：4 名（1 年生：1 名、2 年生：2 名、4 年生：1 名）

活動期間：2017 年 6 月～

担当教員：永瀬節治

1. 活動実施の経緯

有田市箕島地区では、平成 29 年度より有田市社会福祉協議会や箕島地区の地域活動団体である「ワンハート」と連携しながら、多世代交流を通じた地域活性化に向けた活動に取り組んでいる。令和 2 年度からはコロナ禍の影響により現地での活動が制約される中で、オンラインによる交流機会の創出など、内容を工夫しながら実施できる活動を進めてきた。

2. 活動の内容

昨年度の主要な活動としてオンラインで実施した「まちづくりワークショップ」の参加者から出された、世代間交流の機会の創出や、地域の中での情報発信の取り組みなどの課題を踏まえ、今年度は社会福祉協議会と連携した「スマホ講座」に取り組んだ。これは高齢者にスマートフォンの機能や使い方などを教えながら、コミュニケーションを楽しんでもらう企画である。

当初は 8 月に予定されていたが、コロナ禍の影響により延期となり、10 月下旬に箕島駅前広場にて実施することができた。当日は箕島中学校の生徒たちにも協力してもらい、大学生たちにとっても貴重な世代間交流の機会となった。この時の反省点も踏まえつつ、2 月 8 日には第 2 回を開催した。

また、11 月 6 日に開催された「有田ふるさとうまいもんまつり」では、ワンハートと合同で出店し、飲食物（ダージーパイ）の販売を行った。販売物の試作などの準備から当日の運営まで携わり、コロナ禍において地域の大きなイベントに関わる貴重な機会となった。

3. 活動を通じて

今年度は対面での活動が復活し、昨年度のワークショップでの意見を踏まえた具体的な企画に取り組むことができた。現地での活動や地域の方々とのコミュニケーションを通じて得られた情報や達成感、反省点も踏まえながら、来年度も引き続き多世代交流を軸とした活動に取り組む予定である。

4. 成果ポスター

箕島LPP

2022年度活動報告

箕島ってどこ？

和歌山県北西部に位置する有田市の中の地区の一つ。日本有数のみかん産地で、みかん鶏や太刀魚、しらすなども特産品。豊かな自然と地域の人々の温かさで溢れる素敵な地域です。



箕島LPPとは？

メンバー：1～4回生 計4名
有田市箕島地区を中心に**有田市社会福祉協議会**と商店街・商工会議所が中心のまちづくり団体「**ワンハート**」の2つの受入先と協働して活動しています。

活動テーマ

「多世代」で取り組むICT講習を通したまちづくり

昨年度、オンラインまちづくりワークショップを行い住民の方々から出た、

「世代間交流ができる機会がもっとあればいいな…」

「情報発信や受信の仕方がよくわからない…」

そんな地域の課題解決に向けて、2022年度のテーマとして設定し活動してきました。

スマホ講座

10/29に箕島駅前広場にて、高齢者の方を対象としたスマホ講座を行いました。“多世代”交流の場とするため、ボランティアとして箕島中学校の生徒さんにも協力して頂きました。当日は事前に制作した資料を用い、参加者の方の反応を見ながら1対1でコミュニケーションをとり進めることが出来ました。終始温かい雰囲気講座が進み、無事成功に終わりました。また、今回の講座の反省を踏まえ、第2回を行う予定です。(荒天のため2月に延期)



うまいもんまつり

11/6に第20回有田ふるさとうまいもんまつりに、ワンハートと合同で出店しました。当日は予定していた数の「タージーパイ」を無事完売することが出来ました。試作など準備は大変でしたが、購入者の方から「美味しかった」と感想を頂き、達成感を感じたイベントとなりました。コロナ禍でありながら、地域と深く関わるお祭りに参加させていただけたことをうれしく思います。



今年度の振り返りと来年度に向けて

- ・人数が少ない分連携は早くとることが出来たが、個々の仕事量が多いため、見直しをもって会議や活動を進めておくべきだった。
- ・コロナ禍ということもあり、交流できる地域の方も限定的であった。
- ・地域の方と直接お話しすることが出来、大きな達成感を得ることが出来た。

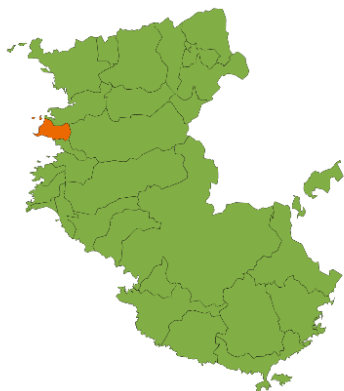


- ・余裕を持った日程調整を行い、今後の予定の見直しを全員で共有できるようにする。
- ・今年度よりも幅広く多くの方に参加してもらえるイベント、多世代交流の場を作る。
- ・有田市社会福祉協議会や「ワンハート」の方々と更に深く連携を取り、活動を行っていく。

更に地域と深く関わり、箕島地区の方のニーズに応えられる活動を！

和歌山県有田市

青みかん（摘果みかん）の価値を上げる



【活動の基本情報】

参加学生数：15名

（1年生4名、2年生：5名、3年生：4名、4年生：2名）

活動期間：2020年6月～

担当教員：岸上光克、永瀬節治

1. 活動実施の経緯

有田市では、有田みかんのブランド化や販路開拓などのみかん産業に対する支援を積極的に展開する中で、毎年みかん収穫前にみかんの大きさを揃えるために成りすぎた果実を減らす作業（摘果作業）によって捨てられている「青みかん（摘果みかん）」の価値向上に向けた取り組みを、令和2年度からLIPの活動として進めている。また令和2年3月に有田市宮原町の旧駐在所をリノベーションして誕生した地域交流拠点「宮原さん家（ち）」の活用にも取り組んでいる。

2. 活動の内容

今年度はイベント班、レシピ班、栽培情報班に分かれ、宮原地域交流協議会をはじめとする地域の方々とともに複数の現地活動を実施した。宮原さん家での1日限定の青みかんピザの販売（10月）や、同企画に向けて地域の方々から試作品へのコメントをいただく「おかんの試食会」、宮原さん家で地域の子どもたちを見守る「おかん当番」の体験を行ったほか、昨年度の宮原小学校での授業に際し小学生から提案された青みかんの活用案を基に試作品づくりを行う「試作会」も実施した。さらに11月下旬にあべのハルカスで開催された「ハルカス学園祭」にも2度目の出展を行い、展示等による活動内容のPRや来場者との交流を行ったほか、令和5年2月中旬には和歌山市の藤戸台小学校において青みかんに関する出張授業も行う予定である。

3. 活動を通じて

コロナ禍の状況も徐々に落ち着き、対面での活動が再開する中で、今年度は現地でのイベントをはじめ様々な企画・提案を具体化する活動を実践することができた。4年目となる来年度は、これまでの成果を踏まえ、商品開発や価値の発信など、青みかんの可能性を地域の方々とともに引き出すための企画や体制づくりに発展することを期待したい。

4. 成果ポスター

宮原青みかんLPP活動報告

私たちは有田みかんの生産途中で間引かれる青みかんの新たな価値の発見、向上を目標に日々活動しています。3年目となった今年度は、コロナウイルスによる制限も緩和され、昨年までと比べるとより地域の方と実際に交流できる機会を持つことができました。来年度以降は、青みかんを活用したこの活動の軸となる商品の開発、地域内外のイベントへの出店をおもに活動してまいります。



おかんの試食会

10月のピザショップで販売予定の「青みかんピザ」の試食会を行い、地域のおかんの方々から様々なコメントをいただきました。これを参考に、当日販売するピザは、試作した2種類のうちより苦味の少ない、果肉を乗せたものが採用されました。試食の前には青みかんに対する印象や地域の現状についてのヒアリングを行い、ピザショップに関する改善点だけにとどまらず、今後の活動に何が求められているのかを認識する貴重な機会となりました。



ピザショップ

昨年度オンラインクッキングを行った『宮原のメモワール』の中の1品、「青みかんピザ」を今年度は1日限定出店しました！青みかんピザは、ソースにもトッピングにも青みかんをふんだんに使ったまさに青みかんを楽しんでいただける商品となりました。当日は地域の幅広い年代の方がお買い求めくださり、このピザが地域の方との架け橋になったように思います。さらに改良をし、まずはもっと地域の方に青みかんの存在価値を知っていただきたいです！



ハルカス学園祭

今年度青みかんLPPとして二度目の出展となったハルカス学園祭では、今年度の活動報告と、青みかんの栽培情報研究の成果の展示を行いました。通りかかった一般のお客様や、出展している他団体の方、和歌山大学OBの方が足を止めてくださり、活動内容の紹介をしたり、意見交換をさせていただいたり、とても貴重な経験させていただきました。青みかんを活用したいという思いに共感して下さる方が多く、この活動をもっと広げていきたいと感じました。来年度は青みかんを使った商品を販売することを目標に活動していきたいです。



おかん当番

地域のコミュニティスペースとなっている宮原さん家で子どもたちを見守る「おかん当番」を私たちも担当させていただきました。地域の子もたちと交流を持つことができ、より身近に地域の子もたちの声を知ることができました。

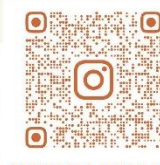


試作会

2021年度に行った、宮原小学校の授業を行ったときに、頂いた小学生たちの青みかん活用案を元に実際にイベント班で試作会を開きました。試作会では青みかんを使用しながらクリスマスリースや石鹸、入浴剤、ラーメン、オレンヂェット、クッキー、パウンドケーキなど様々なものに挑戦しました。



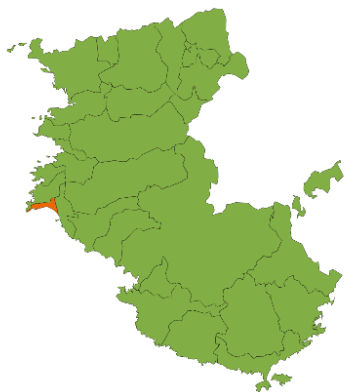
↓クックパッドはこちら



@MIYAHARA_MIKAN_LPP

和歌山県日高郡美浜町

アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信



【活動の基本情報】

参加学生数：15名（1年生：5名、2年生：10名）

活動期間：2020年5月～2023年1月

担当教員：東悦子

1. 活動実施の経緯

2021年に引き続き、美浜町で活動を実施した。前年度からの継続が8名、新規参加者7名の計15名で、2021年の活動を継続・発展させつつ、新たなイベントを企画した。

2. 活動の内容

上記のテーマのもと、「コンテンツ班」と「SNS班」に分かれて活動に取り組んだ。日頃は学生達が主体的に班ミーティングを開き、企画を検討した。

本年度の特筆すべき企画は「和大学生による夏まつり」であった。コンテンツ班は、地域の人々にアメリカ村をもっと知ってもらうこと、特に子供達に地域の魅力や歴史を伝えることが重要と考えた。その企画にSNS班も協力し、夏まつりの要素を入れながら、ウォークラリー等を実施した。ウォークラリーでは地域の見所にまつわるクイズを解きながら歴史や観光資源に触れる、楽しみながら学べる内容であった。参加した保護者からは「アメリカ村について初めて知ることがあった」「子供にとって夏の楽しい思い出となった」「久しぶりに子供が集まって賑わいが戻った」等の声を聞くことができた。

何より意義があったのは、企画、広報、申込者への連絡、安全への配慮、当日の運営、子供達との接し方等、様々な点について熟考し、準備、対応しなければならず、学生が協力し、役割を無事に果たせたことである。終了後、学生達は安堵感と達成感に満ちていた。

最後に、SNS班は夏まつりや美浜町の魅力をInstagramで発信してきたが、リールの視聴回数が4,000回を超えたことも大きな成果であった。

3. 活動を通じて

前年度からの継続メンバーと新規メンバーが交わり、学生達が主体的に活動に取り組むことができた。活動の後半には今後の具体的な取り組みも定め、次年度の活動への意欲も見受けられた。LPPの活動を通して学生達の成長ぶりが感じられた。

一年間、学生の活動を見守り支えてくださった美浜町役場の田中敦之様はじめ役場の皆様、また、いつも温かく迎えてくださったカナダミュージアム館長の三尾たかえ様やフタツの皆様に心より感謝申し上げます。

4. 成果ポスター



美浜町について

美浜町三尾地区は明治時代以降、多くの住民が漁場を求め、カナダへ移住した移民の町です。カナダから帰国した人達が洋風の建物を建てたり、西洋風の生活様式を取り入れていました。三尾地区の異国情緒あふれる姿から、次第に「アメリカ村」と呼ばれるようになりました。

活動内容

●コンテンツ班

目標：アメリカ村の魅力、歴史を知ってもらう

『和大生による夏祭り』（昨年8月21日開催）
対象：小学生（参加人数約30名）

野外活動：ウォークラリー、的あて、
ヨーヨー釣り、玉入れ

屋内活動：クイズ、ビンゴゲーム
→どちらも美浜町の魅力や歴史を内容に含む

参加者のコメント

- ・コロナ禍でどこにも行けなかったが思い出になった
- ・大人も知らないアメリカ村のことを知ることができた

●SNS班

目標：自分たちが体験したことをSNSを使って発信する

煙樹ヶ浜でのSUP体験（昨年8月20日体験）

SUP体験や夏祭りの様子をInstagramで発信

↓
リールの視聴回数は4000回越え

↓
美浜町の魅力を全世界に発信できた

皆さんも美浜町を訪れて、Instagramで発信してください



AMEMURA.W

来年度に向けて

コンテンツ班

①日御埼灯台のパンフレット作成

- ・現状灯台のパンフレットがない

- ・海が一望できたり夕陽が見れたり観光資源になりうる

②イベント（カフェ）

- ・今年度は子供たち向けのイベントをしたので、次は大人向けのイベントも開催したい

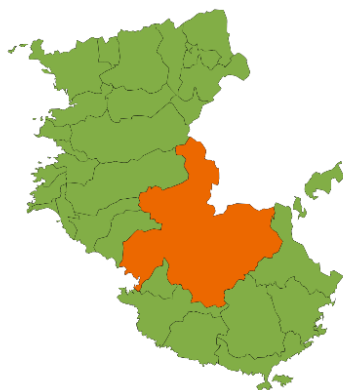
SNS班

投稿内容の質強化

- ・より多くの人にリーチするようなデザインや写真、文章を作成

和歌山県田辺市龍神村地域

「林業×地域」の再発見による 地域将来ビジョン策定とシナリオプランニング



【活動の基本情報】

参加学生数：8名（2年生：2名、3年生：2名、4年生：4名）

活動期間：2021年5月～

担当教員：大浦由美

1. 活動実施の経緯

龍神村地域は、県下でも有数の林業地であるが、田辺市との合併以降、人口流出が続き、高齢化も進行している。本地域の維持・発展のためには、地域随一の資源である森林資源の活用は不可欠である。そこで、林業だけでなく、より多様な林産物や森林空間の活用等を含め、現場に学び、「森林・林業を活かした地域将来ビジョン」の作成とその実現方策の検討・提案を目指し、2021年度から活動を開始した。

2. 活動の内容

- (1) 林業・特用林産物に関する事前学習（9/1）
 - ・和歌山県および龍神村の森林・林業・木材産業（県庁林業振興課・大澤一岳氏）
 - ・和歌山県の特用林産物（県林業試験場・坂口和昭氏）
- (2) 現地視察およびヒアリング（9/27-28、11/12）
 - ・木材生産の流れを知る：伐採現場→龍神村森林組合→原木市場→製材工場
 - ・林業従事者、特用林産物、木工生産者との意見交換（浦光良氏、森林工房大江、G-Works）
 - ・アートによる地域振興：龍神村・ドラゴンミュージアム
 - ・若い世代との意見交換：龍神中学校
- (3) 資源地図作成（10、11月）：現地調査とヒアリングを基に、森林資源活用の特徴を「資源地図」としてまとめた。
- (4) ワークショップ（12/4）：森林・林業関係者、学校関係者に対し、現地調査の報告とワークショップを実施し、地域の将来ビジョン策定に向けた課題を整理した。
- (5) 現地報告会、意見交換（2/19）：12/4の内容をまとめ、本年度の成果として報告する。

3. 活動を通じて

対面での調査やワークショップを実施し、昨年度の提案をさらに深め、課題を抽出することができた。次年度はこの成果を地域将来ビジョンづくりに繋げていきたい。

4. 成果ポスター

2022年度 龍神LPP 岡田・加藤・栗川・小西・重本・長・築地・林

「林業×地域」の再発見

～森林・林業を活かした地域将来ビジョンづくり～

古くから林業が盛んな龍神村（田辺市）で、森林を活かした「地域将来ビジョン」を地域の方々と共に考え、住民の皆さんに提案していきます。

今年度は、龍神村や和歌山県の林業、特用林産物について事前学習をしたうえで、実際にその現場で見学や体験を行いました。



第1回目の現地見学は2日間行いました。

1日目は、木材市場の見学や伐採現場の見学に加え、林業を生業としているIターンの方へお話を伺うなど、林業と暮らしに着目した学習をしました。

2日目は、地元ブランドの龍神真榊をつくった大江さんのお宅に伺い、地元ブランドへの誇りや働きぶりを学びました。それだけでなく、浦さんという半農半林の生活をしている方へお話を伺うなどして、龍神村での生き方や地域の将来について見解を深めました。

資源地図のタイトルは「『木と共に人と共に』森が支える未来への挑戦」です。龍神村にある自然と生きる人たち、そんな人たちがつくるステキなつながりを図に落とし込みました。そこから見えてきた、龍神村住民の挑戦と課題を私たちLPPチームが洗い出して整理しました。



現地で行われた成果発表会では龍神村の農林業に携わる方々へ出席して頂き、意見交流を致しました。「龍神で、夢を描こう。」を実現する為、そして今後の龍神村をどのように考えていくかなど龍神村の村内の方々の意見と私たち龍神LPPとしての外部からの意見を交える事で問題点や今までに無い着眼点を得ることが出来ました。

成果発表会を通じて龍神村の方々の龍神村に対する想いをより感じる機会となりました。

日付		活動
9月	1日	事前学習(in和大)
	27～28日	第1回現地学習
10月	7日	振り返り学習
11月	6日	第2回現地見学
	11日	振り返り学習
	22日	龍神中学校訪問
	25日	資源地図作成
12月	2・3日	資源地図作成
	4日	成果発表会(in龍神)

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

地域の文化や風習の体験から地域住民と触れ合い、
地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。
興味関心に応じた地域のプログラムを通じて知見を深め、
今後につながる価値の創出をめざす。



【活動の基本情報】

参加学生数：4名（1年生：3名、2年生：1名）

活動期間：2016年6月～2023年1月

担当教員：八島雄士

1. 活動実施の経緯

那智勝浦町色川地区は、40年以上前から移住者受入を地域主体で行ってきた中山間地域の集落である。9つある区のなかで、小阪区を主としつつ、その他の区も含め、移住者や地元住民と関わりながら、これからの地域のあり方について考えることが本プログラムの主眼である。

2. 活動の内容

参加学生の興味・関心に応じ、地域のプログラムを通して知見を深め、今後につながる価値の創出を目的としている。色川地区は早くから移住者を受け入れてきた地域であるが、小阪区は、比較的移住者が少なく、昔からの地域行事や風習が残っている。また、棚田や茶畑が地域資源として知られている。今年度は、世話役の千葉さんが経営される「らくだ舎」や地域住民・移住者の方々を訪問、棚田に関わる行事の1つであるしめ縄作り体験等、数回の現地活動を実施した。

3. 活動を通じて

現地活動では地元住民、移住者の方々との交流によって、「色川地区の人々の暮らし」を学んだ。例えばらくだ舎では、提供する料理の食材に色川産を積極的に使用することや、手紙と食材と一緒に送るサービス等、色川で暮らすからこそできる取り組みを知った。また、農家民泊、銀杏農家、小水力発電等の取り組みや、その思いから中山間地域の暮らしが多様であることを学んだ。加えて、棚田の行事に参加するなかで、郷土愛は色川地区の人々の共通の価値観であることを感じた。来年度は棚田サミットが開催されるため、色川地区の人々の暮らしを更に学び、棚田サミットの準備や運営等に関わりたいと考えている。

4. 成果ポスター

和歌山大学観光学部 地域連携プログラム (LPP) 2022

那智勝浦町色川地区




地域の文化や風習の体験を通じて、地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える (興味関心に応じて) 地域をフィールドに、それぞれの知見を深め、価値を創出していく



色川地区について

那智勝浦町色川地区は、那智勝浦町の中心部から山間部へ車で30分ほど行った所に位置する、9つの区から成る、人口が300人ほどの小さな地域です。かつて盛況していた鉱業が1970年代に廃止となり、地域の人口は外部へと流出していきました。しかし、同時期より外部からの移住者を積極的に受け入れ、現在では地区全体の人口のおよそ半分を移住者が占めるまでになりました。ただ、LPPの活動を主に行っている小阪区は、他区と比べ移住者は少なく、その代わり地域の行事や風習が比較的残っている地域となっています。地域資源としては、美しい棚田や茶畑が有名です。特に「小阪の棚田」は、一度休耕田となった棚田を移住者を含む地域住民が主体となり再興させ、現在も関係人口の方々などを交えた保全活動が定期的に開催されています。



LPP活動について

2016年度から活動を行ってきた那智勝浦町色川地区におけるLPPは、色川ならではの行事や風習への参加 (フィールドスタディ) を通し、学生の知見を深めることを中心に活動を行ってきました。また、活動を通して「学生が感じたこと」を地域住民に発表する場を設けることで、住民のいわゆる「鏡効果」醸成にも寄与してきました。2022年度は、これまでの活動をベースにしつつ、棚田などにまつわる地域の課題解決に向けた具体的なアクションを起こすことで、地域の課題を「自分ごと」にする取り組みも予定していました。

活動報告

2022年度は活動の規制が昨年度より緩和されたので、現地での活動を何度か実施することができました。地元の人々や移住者の方々や交流ができ、現地ならではの「色川地区の人々の暮らし」を学べました。棚田を見たり地域の伝統行事に参加したりしたことで、色川地区の人々の郷土愛を感じました。来年度は棚田サミットが開催されるので、「色川地区の人々の暮らし」をさらに学習することに加え、棚田サミットの準備や運営等に関われたらと考えています。

らくだ舎訪問

6月18日に顔合わせを兼ねて色川よろず屋・らくだ舎訪問を行いました。らくだ舎で提供される料理の食材には色川産のものを積極的に使う、手紙と食材と一緒に送るサービスなど色川で暮らすからこそできる取り組みについてお話を伺いました。喫茶室として、また商店として色川地区の方々のコミュニケーションの場となっていることを体感しました。



地域住民・移住者の方々の自宅訪問

私たちは農家民泊を行っている方、銀杏農家を営んでいる方、小水力発電を行っている方のお宅を訪問し「色川地区の人々の暮らし」や色川地区に対する思いに関するお話を伺いました。現地の人々の本当の思いは一人一人異なるもので、地域の守り方の多様性を感じました。中山間地域の日常も知ることができました。



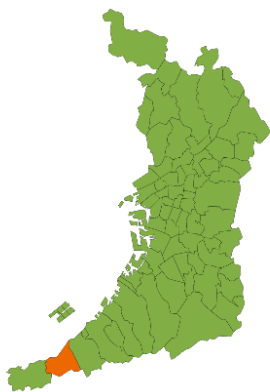
しめ縄作り体験

11月27日に色川地区の伝統行事である、しめ縄作りを体験しました。色川地区の「棚田を守ろう会」の活動の一つで、子どもから大人までたくさんの人が参加していました。交流を通して色川地区の方々の温かみに触れることができ、地域の伝統を継承することの大切さを学ぶことができました。



大阪府阪南市

古代米を活用した商品開発、PR に関して。 「古代米をおいしく食べる」



【活動の基本情報】

参加学生数：6名（1年生：2名、2年生：4名）

活動期間：2020年6月～2023年1月

担当教員：佐々木壮太郎

1. 活動実施の経緯

2018年度から継続中の活動であり、今年で5年目となり最終年度となる。阪南市には多くの観光資源が存在するが、地場産品として広く認知されている素材が少なく、地場産品の更なるPRが課題であるとの認識のもと、2020年度から阪南市商工会が主体となって実施する「はんなん古代米プロジェクト」の活動に参画している。今年度は、古代米のPRを中心とした活動内容となっている。

2. 活動の内容

阪南市商工会が中心となって実施する「はんなん古代米プロジェクト」に参画し、阪南市で栽培される古代米のPR活動を行なった。


- ①対面およびオンラインでのミーティング
- ②阪南市の魅力を知るための街歩き
- ③イベント関連の準備
 - ・ポスターの作成
 - ・古代米マフィンのパッケージ考案・作成
 - ・商品POPの作成
- ④KUUお披露目会、阪南市産業フェアへの参加



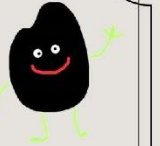
3. 活動を通じて

コロナ禍の影響がまだまだ残る中での活動ではあったが、担当者とのミーティングにおいても対面とオンラインの使い分けが積極的にできるようになり、現地での街歩きやイベントへの参加など、さまざまなリアルな活動機会を確保することもできた。これらの経験から得られた知見や気づきを、今後の学生生活に活かして欲しい。

4. 成果ポスター



2022年度 阪南市LPP活動報告



◆**阪南市とは**
 阪南市は大阪府南部の泉州地域に位置しており、海と山を中心とした豊かな自然や歴史・文化等の地域資源を有する多彩な魅力があふれる街。

◆**阪南市の現状・課題**
 阪南市は、観光資源は豊富にあるが、地場産品として広く認知されている素材が少ない。阪南市の地場産品の更なるPRが課題である。

◆**活動目的**
 阪南市の地場産品である古代米をより認知してもらうため、オリジナルキャラクターの「黒米くん」を活用して、古代米をPRする。


◆**活動内容**

①**街歩き**
 阪南市の魅力を知ることが目的に阪南市商工会と阪南市役所の方々の同行のもと様々なスポットを訪問した。
 (波太神社・浪花酒蔵・山中溪サイドテラス・創作珈琲WITH)


②**KUUお披露目会のポスター制作**

- 目的：KUUお披露目会に向けてLPPの活動をPRする
- ポスター制作で工夫した点
レトロで統一、米の形を多く使って黒米を使ったプロジェクトであると認識してもらう


③**産業フェア**

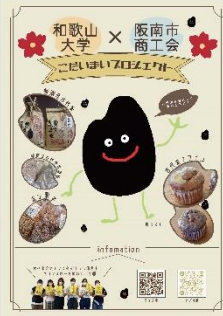


：黒米くん




※KUUとは？
 阪南市の自然の幸から食にゆかりのある事業者が一堂に会し創られる美食の統一のブランド






ポスター制作



古代米マフィンの
パッケージデザイン

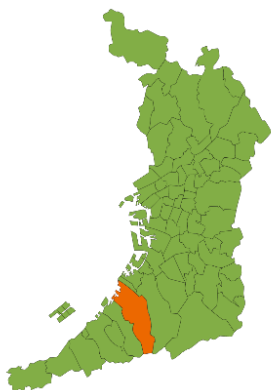


売り場づくり

- ・ポスターとマフィンのパッケージデザインに統一感を持たせる
- ・手作りの商品ポップを配布
- ・くろまいくんを全面的に打ち出した売り場づくり

大阪府岸和田市

港湾エリアにおける持続可能なまちづくり (岸和田港まつりの企画・運営)



【活動の基本情報】

参加学生数：9名（1年生：2名、2年生：5名、3年生：2名）

活動期間：2021年5月～2023年1月

担当教員：竹林明

1. 活動実施の経緯

岸和田市の臨海部は平成31年4月に「みなとオアシス岸和田」の登録を受け、さらなる活性化を目指している。昨年度に引き続き、みなとオアシスエリアで活動することとなり、岸和田市、漁協、漁協が経営する飲食店協力のもと、Sea級グルメの開発を中心とした活動を行うこととなった。

2. 活動の内容

2022年度の主な活動は、①Sea級グルメの開発とイベント出店、②Instagramの運営、の2つである。今年度のSea級グルメの試作・販売にあたっては、漁協が運営している「きんちゃく家」に協力いただき、使用する魚を決定する段階からスタートした。当初はSea級グルメ全国大会を目指していたものの、出場条件の厳しさにより断念した。そして、岸和田市で開催される親子まつりに出店し、みなとまつりにボランティアで参加することとなった。試作にあたり、イベント出店のことを考え、食材は扱いやすさや安定した漁獲量に考慮し、選定した。試作を重ね、最終的には「しらす揚げ餃子」に決定した。中のタネには釜揚げしらすを、餃子の上には生しらすをかけることで、しらすのおいしさを最大限感じさせることができた。祭り本番は150食用意し、午前中で完売した。

Instagramの運営も昨年度に引き続き行っていたが、昨年度に比べて更新頻度が落ちてしまった。また、岸和田市の飲食店や観光スポットの紹介を今年度はやめ、LPPの活動を発信するツールとして使用した。

3. 活動を通じて

昨年度よりも多くの成果と課題が生まれる活動となった。まつりでは売れ残りを心配していた中、予想をはるかに上回るスピードで完売することができた。しかし、もう少し市場調査を行い、準備食数を増やしていればもっと利益を拡大することができたため、機会損失となったと言える。地域の方や漁協にその売れ行きを褒めていただき、LPPの活動に対して興味を持ってくださるなど、交流をすることができた。

4. 成果ポスター

岸和田港湾LPP

2022年度活動報告書

●参加メンバー

東千尋 石田響 井ノ本陽太郎 岩根慎也 西條愛理 羽生裕希 古橋康陽 藤本優衣 新田きらり

●岸和田港湾LPPについて

「みなとオアシス」を活用した持続可能なまちづくりを行っているLPPである。本年度は岸和田港振興協会設立70周年、岸和田市市制施行100周年を迎える記念の年であることを踏まえ、

①SNSでの情報発信（昨年度から継続）

②Sea級グルメの開発

③岸和田市のイベントに参加

を軸として活動を行った。



▲みなとオアシス岸和田HPより

「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核とした街づくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が登録したものをいう。

●年間スケジュール



▼Sea級グルメ

岸和田市の豊富な素材や郷土料理の中から、港湾の方々と案を出し合い、試作を繰り返した。最終的に岸和田港の「しらす」に着目し、商品開発を進めた。私たちが開発した「シラス揚げ餃子」はシラスの本来の良さを最大限引き出すことが出来たと感じている。毎回試作に行く際の人の変更したことや人数がそろわなかったため試作に時間がかかり、少人数の意見になってしまったことが試作の際の課題だと考えられる。

▲親子祭り当日

自分たちでポップを用意し、低い値段設定や店頭での声掛けをしたことで多くのお客さんを呼び込むことができ、用意していた**120食**の餃子はすぐに完売した。設営、接客に加えて、他の出店ブースの人々と交流したことでLPPの活動を広めることができた。想定より多くのお客さんに足を運んで頂けた為、販売個数を少なく見積もっていたことや準備不足でお客さんを待たせてしまったことが課題であると考えられる。



一年間を振り返って

Sea級グルメの開発を通して、市職員の方々や岸和田港湾の方々とプロジェクトを遂行することができ、同時に商品開発のプロセスを学ぶことができた。SNSの活動では、Instagramのフォロワー数を637人まで伸ばすことができ、現在も岸和田市の情報や自分たちの活動を投稿している。

(12/29時点)

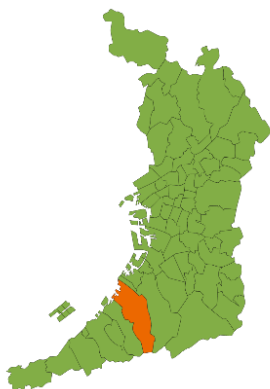
課題として祭り当日の販売数の調整やSNS活動の頻度増加などがあると考え、来年の活動に生かしたいと考えている。

岸和田港湾LPP
活動情報掲載中！



大阪府岸和田市

景観資源活用による景観意識の向上と 地域の賑わい・活性化への影響



【活動の基本情報】

参加学生数：10名

(1年生：4名、2年生：5名、3年生：1名)

活動期間：2021年5月～

担当教員：堀田祐三子

1. 活動実施の経緯

2021年度に続き「岸和田市こころに残る景観資源発掘プロジェクト」で選定された景観資源の利活用について検討する。「こころに残る景観資源」を広く市内外へアピールし、市民の景観意識の向上、地域への愛着やシビックプライドを高めることを企図する。

2. 活動の内容

定期的集まり、岸和田市の景観資源の活用についてメンバーで話し合いを重ねた。

8月には、岸和田城、紀州街道、久米田池などの景観資源を現地で確認した。また、岸和田市役所都市計画課の担当者の方々に活動の進捗報告を行い、景観資源を活用したイベントの開催についての助言をいただいた。

11月には、景観資源を活用したウォーキングラリーイベントを開催した。岸和田城二の丸公園を起点に、ベイサイドに向かうルートを設定し、40名を超える参加者を得た。ゴール地点では参加者アンケートを実施した(13件回収)。準備から当日の運営まで役割を分担することで各自がすべきことが明確になり、スムーズに事が進んだ。イベント終了後にミーティングを行い、反省点を全体で共有し、次年度への活動に活かすことを確認するとともに、次年度の活動計画を話し合った。

3. 活動を通じて

初めて自分たちでイベントの企画から運営までを体験し、様々な課題点を見つけた。イベントを開催するのかもしれないのか、どのような内容にするのか等で悩んだ時期があったが、やってみないと気づけなかったことも多く、開催して良かったと思う。

活動に参加し、岸和田市役所の方々やイベントの参加者、通りかかった人にも積極的に声をかけた。会話に応じてくださる人が多く、人との交流が楽しいと感じた。このように現地で市民の方々と交流し、声を聴くことも景観資源の利活用を考える上で大切な事であると考えている。今回のイベントで学んだことを踏まえて、次年度の活動に臨みたい。

4. 成果ポスター



岸和田市景観LPP





メンバー
 野田和貴② 和泉太輔③ 山田裕大② 岩崎悠花② 青木真結②
 浅田歩美② 石田彪我① 内田真央① 古賀彩① 廣川剛彦①

岸和田景観LPPについて

私たち岸和田景観LPPは、大阪府岸和田市に多く存在する景観資源を広く市内外へPRすることを目的に、岸和田市都市計画課の方々と連携して活動しています。岸和田市では「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」として、毎年市民から景観資源を募集し、指定する取り組みを行っています。私たちはこれらの景観資源を何か有効活用できないかと考え、岸和田市の景観資源をめぐるウォーキングイベントを実施することにしました。今年度は、イベントの企画や準備、運営などを主な活動として行いました。



↑「ここに残る景観資源」の評価分析シート

2021年度春の調査内容

昨年度の春休み期間に景観資源に関する分析とInstagramを使ってのアンケート調査を行いました。まず、2021年12月の現地調査で訪れた23か所の景観資源を、アクセスや場所のわかりやすさ、周辺環境、事前写真との対比などの項目に分け、分析を行いました。景観資源が住宅街の中にあたり、道の一部が景観資源に指定されていたりするものも多く、探すのに非常に苦労したという意見がメンバーの中で多くありました。一方で、写真以上の迫力で圧倒される場所も多くあり、今後の活用へとつながる結果となりました。次に、若者がどのような場所に魅力を感じ、そこへ訪れたいと思う傾向があるのかを知るために、Instagramを利用して景観資源についてのアンケート調査を行い、86人からの回答を得ました。岸和田市の訪れてみたい景観資源を3つ選んでもらう質問では、上位3つはどれも自然に関する場所という結果であり、若者をターゲットにするには自然の豊かさを売りにした周遊ルートや観光ツアーを作るべきなのではないかと考えました。



↑Instagramでのアンケート結果（岸和田市の訪れてみたい景観資源）

ウォーキングイベント「きしわだウォークラリー」

11月27日(日)に、岸和田の景観資源を巡るウォーキングイベントを開催しました。イベントを開催するにあたり、円滑に進めていくために、①着ぐるみ交渉等の準備を行う着ぐるみ班、②イベントポスターの制作やイベント情報のPRを担当する広報班、③当日に使用するマップを作成するマップ班の3つに分かれてイベントに向けて準備を行いました。

当日は、天気にもめぐる、40人を超える幅広い世代の方々に参加して頂きました。大阪府が取り組んでいる景観資源のフォトイベントを併せてPRするなど岸和田市の景観資源の魅力の発信に貢献できました。また、スタート地点とゴール地点に設置した着ぐるみの集客効果は予想以上に高く、イベントに興味を持ってもらうためのきっかけを作る役割を果たしました。参加者の方々から「知らなかった美しい景観資源を知ることが出来た」等の意見を頂くなど、参加者の満足度が高い結果になりました。




↑イベントで使用したマップ

↑イベントポスター

アンケート分析

イベントの実施に伴い、参加者が景観資源をどれほど認知しているかについてのアンケート調査を行いました。計13名の方から回答を頂き、そのうち岸和田市内在住の方が5名を占め、市外から訪れた人のほうが多い結果となりました。

ウォーキング中に印象に残った場所を答える質問では、1位から岸和田城、岸和田港、紀州街道・自然資料館と、景観資源に指定されている場所の多くが3位までを占めました。イベントに対する満足度は全体を通して高かったものの、「ウォークラリーの道中にもう少し工夫が必要である」という意見も頂き、着ぐるみだけでなくコース内にも参加者を惹きつける何かを取り入れる必要があると感じました。



↑イベントで印象に残った景観資源

今後の課題

初めて自分たちでイベントの企画から運営までを担当し、様々な課題点が見つかりました。主な課題として、ルート内の工夫不足やゴール地点のわかりにくさ、スタート地点での参加人数に対してゴールまでたどり着いた人が少なかったこと、往復の時間も考慮したルート設定、アンケートの回収率の低さ、準備段階では段取り不足や各班の共有不足が挙げられます。しかし、それ以上にイベントから学んだことも多くありました。

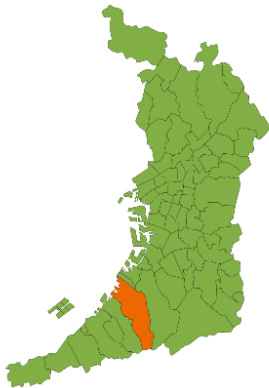
来年度はこれらの反省点を活かし、3年間の本プロジェクトの集大成として、景観資源の更なる活用方法を考え活動していきます。



大阪府岸和田市

岸和田市とアドベンチャーワールドが創る

未来の Smile とは



【活動の基本情報】

参加学生数：8名（1年生：5名、2年生：2名、3年生：1名）

活動期間：2021年5月～2023年1月

担当教員：竹林浩志

1. 活動実施の経緯

岸和田市の丘陵地区に位置する「ゆめみヶ丘岸和田」では、都市・農・自然が融合した新しいまちづくりが進められている。その中で岸和田市とアドベンチャーワールドとの間で「SDGs パートナシップ協定」を締結し、さまざまな取り組みを展開していく予定である。現在は「パンダとともに未来を創るプロジェクト」と題して、ゆめみヶ丘岸和田の広大な放置竹林から竹の枝葉をパンダの飼料として提供し、残った竹幹部分を加工して竹の工芸品等、里山再生と資源循環を促す取り組み等を開始している。

2022年度は、地域資源を用いた観光PRや、ゆめみヶ丘岸和田に立ち寄ってアドベンチャーワールドに行くような観光コースの発掘等、地域の活動に参加しながら具体的な商品を考えることを目的にして活動をはじめた。

2. 活動の内容

昨年度の活動で得た知見をベースに、アドベンチャーワールドのファンを岸和田に呼び込むツアーの作成や、岸和田の竹を利用した商品の開発など、より具体的なプランを提案することを目標に活動を行うこととした。

3. 活動を通じて

昨年度とメンバーが大幅に変わったため、地域のイベントや取り組みにも参加しながら、地域における課題や秘めた可能性を見出し、アドベンチャーワールドの現在の課題や今後の展望等を理解し、どのような連携ができるのかを検討することを考えていたが、今年度はアドベンチャーワールドとタイミングが合わず実際に訪問することができなかつたため、その実情をより深くとらえることは難しかったが、限られた情報の中で学生たちは非常に頑張ったと理解している。また、実際の商品の作成の困難さを肌で理解してくれたものと考えている。

4. 成果ポスター



2022 年度
岸和田市ゆめみヶ丘 LPP

岸和田市ゆめみヶ丘 LPP では、放置竹林やアドベンチャーワールドのパンダの食べ残しにより
使い道がなくなってしまう竹を有効活用し、人々が楽しみながら、SDGs に貢献する方法を追及している。
今年度は、パンダに竹を提供している岸和田市ならではの観光的な価値をつくることを目的に、ツアー・商品企画に取り組んだ。

ゆめみヶ丘岸和田

ゆめみヶ丘岸和田は岸和田市の丘陵地区に位置している。「人が元気で
快適に生きがいを持って暮らせるまち」「活力があり地域を輝かせる産
業があるまち」「地球と人にやさしい自然環境がある
まち」の3つをコンセプトに、都市・農・自然が融合し
た新しいまちづくりが進められている。



ゆめみヶ丘岸和田とアドベンチャーワールド

岸和田市では竹の増えすぎによる環境・景観の悪化を防ぐため、2011 年から、ゆ
めみヶ丘の竹林から切り出した竹をアドベンチャーワールドのパンダの食料として
提供している。その後、2020 年には、パンダが食べ残した竹(パンダバンブー)を
有効活用することによって竹を用いた循環型社会の実現を目標とした「SDGs パ
ートナーシップ協定」を結んだ。

活動報告

- ミーティング: 岸和田市とアワーズを交え、それぞれの状況と今後の方針について話し合った。
- 視察: ゆめみヶ丘やその竹林を視察し、岸和田市とアドベンチャーワールドとの関わりや放置竹林の利用法に関する
詳しい話を伺った。道の駅「愛彩ランド」や岸和田 SA などを訪れ、岸和田の特産物がどのように販売されているのかを
学び、地域の人々とかかわりを通じてゆめみヶ丘にしかない良さを探求できた。
- アドプトフォレスト活動: アワーズの行っているアドプトフォレスト活動に参加した。竹の伐採見学や加工体験など貴重な経験ができた。

学生からの声:
岸和田 SA では、岸和田市特有の
お土産や、パンダに関連した商品が多く
取り揃えられており、ツアーや商品を
考えるうえで良い機会になりました。



ツアー・商品企画

この LPP の活動目標に、「ゆめみヶ丘岸和田に立ち寄ってアドベンチャーワールドに行くような観光コースの実現」や、「ゆめみヶ丘岸和田やアドベンチャーワールドなら
ではの価値の創造」というものがある。そこで、私たちはゆめみヶ丘にアドベンチャーワールドのファンを観光客として呼び込むツアーの作成や、ゆめみヶ丘岸和田の竹を
利用した商品製作を、ツアー班、商品班の 2 グループに分かれて取りかかるとした。
なお、ニーズ調査や、アドベンチャーワールド側との話し合いはまだ行われていないため、試作段階である。

● ツアー班

パンダオフ会 in ゆめみヶ丘岸和田(仮名)

ターゲット層: アドベンチャーワールドのパンダのファン。

概要: 日中は、ゆめみヶ丘岸和田で、実際にパンダの餌となる竹を伐採したり、それを用いて世界に 1 つだけの限定パンダグッズを作成したりする。岸和田市と株式会
社アワーズの取り組みを知ってもらい、また、夕方から夜にかけて、会食を通じてパンダのファンどうしの交流会を行う。可能であれば、パンダの飼育員などアドベンチ
ャーワールド側の方々にも参加してもらい、講演やパンダたちの小ネタを話してもらえればと思う。ここでは、岸和田市産の食品を用いることによって岸和田市を PR
する。

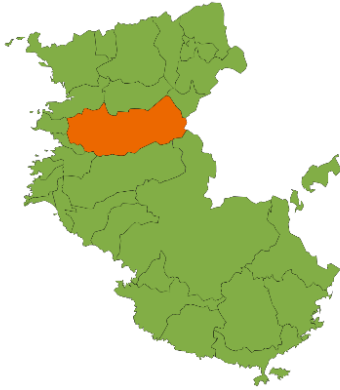
● 商品班

今回私たちが企画した商品は、「推しアニマルバンブーバスケース」だ。

この商品は、年 4 回以上アドベンチャーワールドを訪れる年間パスポート保持者をターゲットにしており、推しのパンダ、動物達のモチーフや姿をあしらった竹製のバス
ケースである。他のテーマパーク好きや、動物園好きの間で、年パスを保管するケースが人気である事に着目し、好きな動物のグッズを買い、いわゆる「推し活」ができ
る商品にした。ツアー内でのイベントでは、この商品に追加でつけられるストラップを竹で作ってもらい、クラフトが簡単で手頃であれば、「竹ストラップ工作キット」の商
品化も考えられる。

和歌山県有田郡有田川町

学生との協働による棚田保全・集落支援活動



【活動の基本情報】

参加学生数：23名

(1年生：2名、2年生：9名、3年生：6名、4年生：6名)

活動期間：2011年7月～

担当教員：大浦由美

1. 活動実施の経緯

有田川町での第19回全国棚田(千枚田)サミット(2013年度)開催決定をきっかけに、2010年に県が企画した「棚田モニターツアー」に当時の観光学部生約20名が参加した。地域の農業者の高齢化とともに耕作放棄地が増加する当地の現状を目の当たりにして、学生側から「棚田保全ボランティア」のアイデアが出されたことをきっかけに、学内で棚田保全ボランティアへの参加者を募り、「棚田ふぁむ」を結成。2011年7月から活動を開始した。

2. 活動の内容

コロナ禍の影響が続いていたが、今年度については、ほぼすべての現地活動を実施することができた。また、2022年秋「夕暮れのシエキノカワでピクニック」(10月29日)に3年ぶりに出店し、沼地区製品の販売やPRを行った。さらにJICA関西「地域理解プログラム」の一環として有田川町清水地区で実施された研修に参加し、棚田ふぁむの活動紹介および体験交流を実施した。その他の活動については以下の通りである。

- ・メンバー紹介および活動報告誌の作成
- ・沼地区および沼地区産品をPRするためのパンフレットの作成
- ・FM和歌山と観光学部生によるラジオ番組「ワダイノタビ」への出演(棚田ふぁむの活動や沼地区についての紹介)

3. 活動を通じて

ようやく現地活動を再開することができたが、感染状況をにらみながらの日程調整であったために時間がかかる等の問題により、参加者の確保の面では課題が残った。次年度は、学生・地域双方にとっての活動の意義をあらためて共有するために、地域の現状を把握するための調査活動を実施する予定である。

なお、本活動は、農林水産省「つなぐ棚田遺産」感謝状(未来へつなぐ部門)贈呈企業等のひとつとして選定された。長年にわたって本活動を支援していただいた全ての関係者に深く御礼申し上げたい。

4. 成果ポスター

棚田ふあむ



有田川沼地区LPP

●活動目的 棚田を保全する沼地区の支援

●有田川町沼地区について

和歌山県中央部に位置し、「日本の棚田百選」に選定された「あらぎ島」をはじめとして、多くの棚田が点在している。急傾斜地の棚田が美しく、近年では「ぶどう山椒」の栽培も盛ん。課題は高齢化が進み、沼地区の人口割合はほとんどは高齢の方が占めていること。その為、棚田やぶどう山椒も現在はそなたたちが栽培可能でも、後継問題や自分たちで栽培ができるかという問題が深刻。特産品：ぶどう山椒、高原トマト、米

●活動内容



機械が使えない狭い場所であるため、手でひとつひとつ丁寧に植えていきます！

5月 田植え・草刈り

小さな山椒の実を取り残さないように丁寧に収穫！炎天下で1日中作業するのは大変ですが、とても達成感があります！



7月 山椒収穫



沼地区の農家のみなさんが大切に育てて下さった5月に植えた稲を手作業で刈り取っていきます！

9月 稲刈り

干しておいた稲を脱穀する機械で脱穀、殻を取り去り、精米機にかけて玄米から白米に！精米したてのお米は輝いて見えます！



10月 脱穀・精米



沼地区の農産物販売 inシエキノカワ

イベントに出店し、沼地区の農産物を販売！沼地区のパンフレットも同時に渡して、積極的に沼地区をPRしました！

シカやイノシシによる農業被害が深刻であるため、地区の外縁を獣害予防のための柵で囲んでいます。倒木や壊れているところがないかチェックし、直します！

その他の活動（獣害柵の点検・補強）



「ふあむからのあのね」の作成

活動報告として地域の方々に渡しているニュースレターで、毎回の活動後に学生の感想や発見をまとめて、地域の方に発信！地域の方々が楽しみにして下さっているのが励みです(*^^*)

●今年度の総評

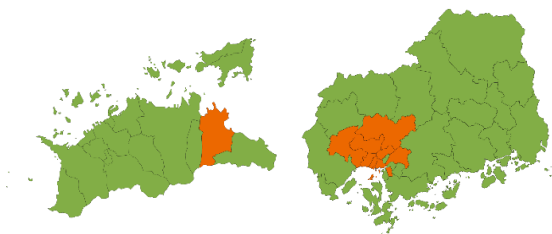
コロナが落ち着き、例年に比べて現地での活動を行うことができました。そのおかげで実際に自分たちで体験することができ、普段の生活では気づけないことにも気づくことができ貴重な体験をさせていただきました。また、地域の方々と直接お話をしたり、教えていただいたりする機会も多く、地域の方々との交流も深めることができました。

●来年度に向けて

- ①調査活動の強化 沼地区の住民へのヒアリング調査を行い、このプロジェクトへの新たなニーズを掘り起こす
- ②沼地区をより多くの人に知ってもらう活動を行う
沼地区は高齢化が進んでいるため、将来的に広大な棚田を守り切れないのではないかと危惧している。そのため、沼地区の魅力を多くの人に伝えることで移住者や協力者を呼び込む必要があるのではないかと考える。

香川県さぬき市および広島県広島市

瀬戸内カレッジ 2022



【活動の基本情報】

参加学生数：12名

(1年生：4名、2年生：8名)

活動期間：2022年7月～

担当教員：木川剛志、八島雄士、金岡純代

1. 活動実施の経緯

JR西日本とJR四国、瀬戸内地域の自治体と大学が協力して行う産官学連携事業「瀬戸内カレッジ」に参加した。各地域の課題を踏まえて、若者視点を活用した地域活性化、旅行需要の喚起、学生の成長機会の創出を目指すプロジェクトである。和歌山大学が担当した自治体は広島県広島市と香川県さぬき市だった。この企画はこれまでも継続的に和歌山大学観光学部として参加してきたものである。

2. 活動の内容

参加学生は、瀬戸内地域の自治体からプレゼンを受け、その中から希望を提出することになり、他の大学と重なった場合は抽選となる。今年は抽選には外れたため事前の希望とはならなかったが、参加することで、それぞれの地域の魅力を感じることができた。

和歌山大学は香川県さぬき市と広島県広島市の二班に分かれた。それぞれの自治体と交流し、事前学習を始め、その成果を2022年7月16日に他大学との合同で開催されたキックオフミーティングで発表した。その後、さぬき班は9月16日～18日と9月26日～28日、広島班は9月21日～23日、9月27日～29日と前後半日程に分けて現地実習を行った。その成果は、10月23日に中間報告会がオンラインで実施され、12月21日には大阪グランビアホテルにて成果報告会が行われた。

3. 活動を通じて

和歌山大学観光学部の二つのチームは受賞することはできなかったが、それぞれの自治体と一緒にコンテストに参加することで、地域の課題、それに対する解決に向けての提案の経験を得ることができた。瀬戸内カレッジは毎年多くの学生から参加の要望のあるプロジェクトである。それは観光学部が地域再生を学ぶことを一つのミッションとしていることから、学生たちがやりたいこと、を実現できるものだからである。この学びを通じて、さらなる企画力、プレゼン能力を高めていきたい。

4. 成果ポスター

2022年度

JR 瀬戸内カレッジ

香川県さぬき市・広島県広島市

瀬戸内カレッジとは

瀬戸内カレッジとは、Jre西日本と瀬戸内の自治体、大学が連携し、若者視点を活用した瀬戸内地域活性化や旅行需要の喚起、学生の成長機会の創出を目指す産官学のプロジェクトです。これまで北陸、南九州、新潟エリア等と内容に合わせて毎年実施してきました。一連の取組みを通して、参加学生と地元協力者の間で交流が生まれ、地域と連携強化の促進、大学生による若者目線の旅行プランや地元の課題解決に向けたアイデアの提案、および自主的ゆ地元PRを展開してきました。今年度は昨年度と同様、瀬戸内エリアを対象とし、「瀬戸内カレッジ」を実施しています。

さぬき市



ようこそ四国へ!

①さぬき市の概要

さぬき市は香川県東部に位置し、人口は県内6位の都市です。主な観光資源として、津田の松原、日本トルファンセンター、お過路さんで有名な四国88ヶ所の志度寺・長尾寺・大窪寺があります。海や山といった自然の豊かさを活かしたアクティビティの他にも、お過路に関連する寺が存在するなど歴史も感じることができます。

②現状の課題

さぬき市の課題として2つ挙げられます。1つ目は通過型観光であることです。宿泊施設の少なさを地理的要因が原因で、関西方面からの旅行客がさぬき市ではなく高松や松山へと流れてしまっているのが現状です。2つ目はSNSでの情報発信の弱さです。市の公式SNSがLINEのみの現状から、情報発信の強化が求められています。

③自分達が提案した内容

市内にある眺望の良い大串自然公園でフォトスポットや貸出自転車などのアクティビティを増やすこと、野外劇場「シアトロ」で映画鑑賞会の開催、志度町でのランタンフェスの開催を提案しました。また情報発信の面からINSTAGRAM投稿コンテストを考え、共通ハッシュタグやテーマを設定するなど、より拡散されやすい工夫をしました。

広島市



①広島市の概要

広島市は広島県の西部に位置し、中国・四国地方で最大の人口を有する中核都市です。また広島市は国際平和都市に指定されており、原爆ドーム等の平和に関連したスポットには国内外問わず、多くの観光客が訪れています。そのほかにも歴史、自然、食など様々な要素が詰まったスポットがある魅力あふれる都市です。

②広島市の課題

広島市の課題は、広島市＝平和というイメージがあまりにも根付いてしまっている点です。世界初の被爆都市であることから、平和を発信する都市としての魅力的なイメージを持つことは必然ですが、その影響から広島市には硬いイメージを持たれている方が多いです。そのため広島市に対する新たなイメージの検討が必要です。

③自分達が提案した内容

私たちは「大人の修学旅行」という提案をしました。修学旅行に必要な要素の一つとして学びがあることを定義し「国際平和都市広島」を新しい視点で見つめ、広島市を通してSDGSについて学べる旅を提案しました。広島市の観光スポットごとにSDGSポイントを決め、旅行会社の企画力を活かす等の工夫を施しました。

和歌山県有田郡広川町

ツギー谷のお花畑の活用を通じた 津木地区の活性化を考える



【活動の基本情報】

参加学生数：9名（1年生：1名、2年生：2名、3年生：6名）

活動期間：2014年6月～2022年1月（LIP地域公募）

2022年4月～（L活）

1. 活動実施の経緯

広川町津木地区の魅力である豊かな自然資源や、津木地区寄合会が生産している加工品を活かしながら、寄合会の活動拠点である「ツギー谷のお花畑」を軸とした津木地区の活性化を目標とした活動を2014年から継続してきた。

2. 活動の内容

現地訪問、和歌山市の市駅“グリーングリーン”プロジェクトへの出店、週一度の会議を実施した。

3. 活動を通じて

広川町の山間部に位置する津木地区は魅力的な農業資源や美しい自然資源を有する地域であるが、過疎化や少子高齢化の進行を原因とした多くの課題を抱えている。私達はそれらの課題を解決し、津木地区の魅力を広めるため、2014年より、寄合会の方々と協働しながら「広川LIP」として活動してきた。

今年度はこれまでの「花畑を軸とした活性化」というコンセプトを変更し、マーケティング論を活用した「露あかね（スモモと梅の交配種、広川町の特産品）」の販売促進を目標として活動を行った。週一度、90分程度のミーティング・勉強会を行い、マーケティング論について理解を深めた。これは、これまでの「リーダーの代ごとに活動内容の方向性が変わってしまう」「直感的なアイデア・活動予定を基にした活動実施」、「お花畑の維持管理に携わることは難しい」といった反省を踏まえた新たな活動であり、広川LPPが明確な目標・方向性を持った活動を実施するためのものである。マーケティング論の活用に関しては難しい面も存在するが、3回生がゼミで得た知識を活用しながら、主体的な勉強会を実施することが出来た。

一方で、こうした学びの成果を地域の中でどのように還元できるかが課題であり、今後の活動のあり方については、地域の意向も踏まえながら検討したい。

4. 成果ポスター



Hirogawa LPP

★広川町LPPの概要★

広川町津木地区の「魅力発見・発信」を目的に活動。2014年から活動し、今年で9年目。

昨年度まで津木地区の「お花畑」の活用をテーマに活動。今年度は、地域の方との話し合いの末、広川町の特産品である梅とスモモの交配種「冷凍つゆあかね」のマーケティングに方向性を転換。現在毎週学内で会議を行っている。



▲つゆあかねの開封前後。美しい紅色と甘酸っぱい味が特徴。ハートのパッケージが魅力。

★会議★

毎週会議を行った。会議内容は、主にマーケティング学習、それを基にした、「冷凍つゆあかね」のマーケティングである。基本的知識の習得からはじめ、現在、今後の活動土台をつくるまでに至っている。

★GGP★

今年度も、和歌山市駅グリーンプロジェクトに参加。つゆあかねジャムの売れ行きは好調。来年は多商品の売り上げ向上を狙いたい。

★現地訪問★

今年度は2回現地訪問を実施。第1回では、ソーギー谷のお花畑で苗植え・種まきを行い、第2回では、地域住民の方々とコミュニケーション機会を頂いた。地域により密着した活動を目指したい。

★課題点★

課題点として2つ。まず、耕作放棄地問題。そして、鳥獣被害問題。この対応が今後の課題として挙げられる。いずれも全国の農山村を取り巻く問題であり、広川町も例外ではない。

◎今後の展望

お花畑の持続・発展を視野に入れつつ、花に関する知識をさらに取り組むことを目標に。加えて、現在取り組んでいる、「冷凍つゆあかね」を、マーケティングの観点から徹底的に分析、実践していきたい。



▲会議の様子。空きコマに集まり、冷凍つゆあかねのマーケティング・販売について模索している。

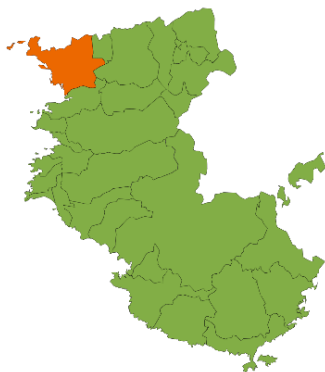


▲広川町に咲いていたアジサイ。広川町には様々な花が咲いている。

47

和歌山県和歌山市

雑賀崎の観光スポット（レモンの丘）整備と 活用のための情報発信



【活動の基本情報】

参加学生数：8名（1年生：3名、2年生：2名、4年生：3名）

活動期間：2022年4月～

1. 活動実施の経緯

私たちは、2019年度に「大学生観光まちづくりコンテスト」に参加したことをきっかけに雑賀崎での活動を開始した。2020～2021年度は「雑賀丸」として、漁師や地域住民の方々と協力しながら住民や観光客の方々へのアンケートの実施・分析、留学生にむけたモニターツアーの計画、郷土教育の計画などを行ってきた。今年度よりLPP（L活）として枠組みを変更し、上記の活動をより実践的な活動に発展させてきた。

2. 活動の内容

今年度は、現地訪問、レモンの丘利活用の計画や竣工式への参加（2023年3月参加予定）、空き家利活用に向けたイベントの準備、運営補助（予定）を行ってきた。2回実施した現地訪問（2022年7、8月）では、地区内の探索、現地の方々との交流だけでなく、現地の方が営む民泊での宿泊体験やはたうりの見学等も行った。2回目の訪問時に現地の方から誘いを受け、チーム雑賀崎（行政が支援する地域住民の団体）の会議に参加させていただくことになり、2023年2月25日に開催予定のイベントに向けて、会議や空き家清掃などの準備を進めている。当日は今までの活動の成果還元や運営補助を行う予定である。

旧雑賀崎小学校の跡地にあるレモンの丘では、ベンチやブランコなどの整備が和歌山市により進められている。地域住民にとって親しみのある場所を、観光スポットとして魅力を発信することを目標に会議を進めてきた。また、3月4日に行われるレモンの丘の竣工にも出席予定である。これらの活動を円滑に進めるため、週1回程度のミーティングを行い、意見を出し合ってきた。

3. 活動を通じて

活動を通して、観光客や住民のニーズを把握し、取り組みを提案、実施することができた。現地の方々との対話によって、地元住民が誇りをもつ雑賀崎の魅力を理解し、観光地としてだけではなく、移住者を誘致する方法も考える活動にまで発展させることができた。

4. 成果ポスター

和歌山市

雑賀崎PPP



▲雑賀崎のまち並み。イタリアのアマルフィに似ている。

★活動経緯

・これまでの活動について

★活動報告

○現地訪問1回目

- ・地域住民の方々との交流
- ・Gatto blu(ガットブル)
- ・その他の訪問場所



Gatto bluの内装



Gatto blu



レモンの丘に
植樹されたレモンの木

▼雑賀崎の灯台




▲衣美須(えびす)神社

○現地訪問2回目

- ・はたうり
- ・民泊「新七屋」

宿泊した民泊
「新七屋」さん



はたうり
の様子



★今後の展望

- ・地元の方々や観光客のニーズの把握
- ・地域住民との対話の必要性
- ・雑賀崎の魅力理解
- ・観光先、移住先に雑賀崎を選んでもらうために

★空き家利活用



▲イベントに向けて空き家の清掃中。

★レモンの丘



▲ブランコ、鏝、ベンチなどを創設し憩いの空間に。

49

3. 2022 年度 LPP 合同活動報告会の実施

2022 年度に実施した LPP の活動報告について、その取り組みを広く共有し、学生が活動を振り返り、自身の学びと今後の活動のブラッシュアップを図るため、「2022 年度 LPP 合同活動報告会」を実施した。本報告会は、各プログラムのリーダーを務める学生が中心となり、企画、運営をしている。当日のプログラムについては次頁を参照のこと。

開催日時：2023 年 2 月 2 日（木）、3 日（金）両日とも 16 時 30 分～18 時 35 分頃

会 場：和歌山大学 西 4 号館 T-101 教室、
1F エントランスホール、2F 多目的スペース

主 催：和歌山大学 観光学部

来場者数：2 日（木）学生 53 名、教員 4 名、一般 12 名

3 日（金）学生 62 名、教員 5 名、一般 10 名、和歌山大学関係者 2 名

1) 発表について

各プログラムが作成したポスター*を掲示しながら、参加学生による 5 分間の活動報告を行った。参加者および学生からの発表への報告や感想は、当日配布のコメントシートに記入し、閉会後に回収する。回収したコメントシートは集計したのち、各プログラムのリーダーに返却した。

*発表の際使用したポスターについては、各プログラムの活動報告書（本誌 P.12～P.49）の右記ページを参照のこと。

2) 交流会について

LPP に関する 5 つのテーマについて、グループディスカッションを行った。各テーマにはファシリテーター（リーダーを務める学生が担当）が付き、参加学生 5～8 名のグループに分かれて 7 分間の意見交換を行う。グループは事前に組分けし、いくつかのプログラムから数名ずつが混合した構成となっている。ファシリテーターを中心に、学生の意見を付箋に書き出し、模造紙に貼付することで意見交換の活性化を目指した。

テーマ一覧

- ①各 LPP の会議の取り組み方について
- ②地域や学生、学生同士の連絡の取り方について
- ③LPP の制度上の課題について
- ④来年度の地域、LPP への関わり方について
- ⑤LPP での 1 年間の学びについて



2022年度

LPP合同活動報告会



和歌山大学観光学部の「地域実践型教育プログラム」

2022年度に実施した全19プログラムの参加学生が一同に会し、活動報告を行います。
学内だけでなく、受入自治体など学外関係者の皆様の参加を歓迎いたします。
LPPを通じた貴重な交流の機会。皆様のご来場をお待ちしております。

2023年

2月2日 (木) 16時30分～18時35分
3日 (金)

和歌山大学観光学部 (和歌山市栄谷930番地)

西4号館 T-101教室、1F エントランスホール、2F 多目的スペース

LPP (地域連携プログラム) とは

地域活性化に関心を持つ学生が、現地に足を運び、地域住民と連携することによって、地域が抱える課題の解決を目指すプログラムです。

地域住民は生活者の視点から、学生は「ヨソ者」の視点から意見を出し合い、ともに活動を行うことで、双方にとって新たな気づきの機会となることがLPPの特徴です。

※2022年度より、「地域インターンシップ・プログラム (Local Internship Program, LIP)」から名称を変更し、新たな枠組みでスタートしました。

お問い合わせ先：
和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510 和歌山市栄谷930

TEL/FAX 073-457-8553/073-457-8586 E-mail tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp

主催：和歌山大学観光学部

2022年度LPP合同報告会 プログラム

2023年2月2日（木）、3日（金）16時30分～18時35分頃

■受付

16:30～16:45 受付（2F 多目的スペース）

■2022年度 LPP合同報告会

16:45～16:50 開会あいさつ・主旨説明（T101教室）

16:50～17:30 LPP活動報告（ポスターセッション 報告時間：5分、転換：2分）
発表場所
A：1F エントランスホール、T-101教室前方
B：2F 多目的スペース、T-101教室後方

	2月2日（木）		2月3日（金）	
	A	B	A	B
16:50～16:55	和歌山市 雑賀崎の観光スポット（レモンの丘）整備と活用のための情報発信	大阪府岸和田市 （アドベンチャーワールド） 岸和田市とアドベンチャーワールドが創る未来のSmileとは	那智勝浦町 地域の文化や風習の体験から地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。	広島県広島市および香川県さぬき市 瀬戸内カレッジ2022
16:57～17:02	大阪府阪南市 古代米を活用した商品開発、PRに関して。「古代米をおいしく食べる」	広川町 ソーギョー谷のお花畑の活用を通じた津木地域の活性化を考える	有田市箕島 多世代で取り組むICT講習を通じたまちづくり	岩出市 道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査及び利用促進企画
17:04～17:09	大阪府岸和田市（港湾） 港湾エリアにおける持続可能なまちづくり（岸和田港まつりの企画・運営）	田辺市龍神村 「林業×地域」の再発見による地域将来ビジョン策定とシナリオプランニング	紀美野町（小川地区） 地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生	大阪府岸和田市（景観） 景観資源活用による景観意識の向上と地域の賑わい・活性化への貢献
17:11～17:16	紀の川市 紀の川スイーツの開発	海南市 交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発	美浜町 アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信	和歌山市 加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興
17:18～17:23	有田川町（棚田ふあむ） 学生との協働による継続的な棚田保全・集落支援活動	紀美野町（げんきマップ） きみのげんきマップの作成	有田市（宮原地区） 青みかん（摘果みかん）の価値を上げる	

17:30～17:35 講評（T101教室）

17:35～18:30 交流会（各LPPブース）

18:30～18:35 閉会あいさつ（T101教室）

- ・ご来場の際はまず受付（2F 多目的スペース）にお越しください。
- ・活動報告は各ブースにて行います。ご自由に移動してください。
- ・エントランスホールおよび多目的スペースでは、各プログラムの成果物や活動地域の特産品、パンフレットを展示しておりますのでぜひご覧ください。
- ・報告後、交流会の実施を予定しております。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

3) 発表の実施報告

本会では、各報告時間に2プログラムずつ、別のエリアで発表を行った。当日の振り返りと報告のため、後日、各プログラムの発表の様子や、コメントシートに記入された質問および感想をまとめた報告書を参加学生が作成した。

和歌山県和歌山市

テーマ：加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興

各LPPのブースでポスターを活用して発表する・報告を聞くという形式で行われた。加太・磯の浦LPPの発表においては、「メンバーの活動に対する声」を取り入れたことについて、合同報告会に参加した学生から評価頂けたことが良かったと感じる。他のLPPの発表を見ても、時間ギリギリまで報告を行うチームが多く、一年にも満たない活動期間で、真剣且つ内容が充実した活動に取り組んできたことが伺える。発表においても要点整理がなされたものが多く、聞き取りやすいものが多かったと考えられる。

交流会においては、各LPPでの取り組みでは繋がることのないような学生や、複数の学年が混合してコミュニケーションを取っており、様々な価値観を知るという観点からも非常に良かった。開始直後の方が、意見が多く、活発に議論できたが、後半になるにつれて議論の短時間化があったと振り返る。交流会での議論を通して出た意見は、学生の地域への関心をより高める重要な改善点であると考え、来年度の活動に活かしていく必要がある。地域への関心が高い学生が参加する会だからこそ、学生1人1人が主体的に取り組めたことは、このLPP合同報告会において一番良かったことであると振り返る。



和歌山県岩出市

テーマ：道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査及び利用促進企画

岩出市のポスター発表では、LPPの活動を伝えることができたと感じる。コメントシートでは特に、動画制作やそれについてのアンケート、アンケート結果の分析などについての感想が多かった。そのため、岩出市LPPの活動で、何をし、何を学んだのかを、発表を聞いてくださる方々に伝えることができたと感じた。また、LPP内で気づけなかったことや、新しい視点で意見しているコメントもあった。



交流会では、主に他のLPPでの活動を知ることが出来た。例えば、活動地域に何度も行った、地域のイベントで着ぐるみを着たなど、様々な取り組みがあった。時間が短かったのでできなかったが、詳しく知りたいと感じた。

交流会のテーマは、「一年間の学びと今後に生かせること」であったが、LPPの活動が多様であることから、学んだものも様々であった。共有された意見の中には、コミュニケーション力がついた、伝える力がついたなどがあり、社会人になっても必要となる力がついた人が多いと感じた。

和歌山県紀の川市

テーマ：紀の川スイーツの開発

基本的には、どのブースも発表するLPPのポスターの周りに立って報告を聞くという形式で行った。紀の川市LPPのブースでは積極的に質問もあり、メモをとる学生も多く見受けられ、非常に意欲的な姿がみられた。また、発表時間を目一杯使うLPPもあり、この1年間、真剣に活動してきたことがわかった。発表内容もこれまでの活動を聞き取りやすく発表する班が多く見受けられ、全員が積極的に取り組んできた証拠であると感じた。



また、交流会では一回生から三回生までのグループ編成の中、全員の意見を聞くことができた。どのグループも共通して、「(LPP内での) 縦の交流がほしい」「現地活動をもっとしたい」という意見が多かった。LPPに参加しているということもあり、意見をあまり発しないという人はいなかった。全員が感じたことや考えていることを素直に付箋にも伝えることができていたように感じたので、非常に良い光景であると感じた。特に一回生は意見を発することが難しいと思っていたが、積極的に意見を発していた。今回挙げられた意見は、和歌山大学観光学部でLPPという活動をこれからも続けていくために参考にし、活かしていく必要がある。

和歌山県海南市

テーマ：交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発

今年度の活動について年間の流れに沿って発表しました。地域の皆様も最前列で発表を聞いてくださり、活動を地域の方々と改めて振り返ることができました。本 LPP は参加学生が 9 名と比較的少数（合同報告会当日の参加者は 5 名）であることから、発表のどの項目を担当しても報告できるレベルまで、全員が活動に携わっていることを、発表を通じて認識することができました。報告ではパンフレットを見せたり、2 年生の成果物である「大崎周遊 MAP」を見せたりしながら発表したことで、参加者の方々に興味を持ってもらえたと思います。発表後、地域の方から「良い発表だったよ」と直接お声がけいただけただけが何よりも嬉しかったです。コメントシートの質問への回答です。



報告ではパンフレットを見せたり、2 年生の成果物である「大崎周遊 MAP」を見せたりしながら発表したことで、参加者の方々に興味を持ってもらえたと思います。発表後、地域の方から「良い発表だったよ」と直接お声がけいただけただけが何よりも嬉しかったです。コメントシートの質問への回答です。

Q. 「マリトッツオのイベントの目的は何？」

A. 「げんきかざまち」で行われる夏祭りに、何か企画をやってみないかというお話をいただき、私たちが今後アクションを起こすための準備運動という目的で企画をしました。大崎のブルーベリーを使用したマリトッツオ作り体験は、大学生らしいアイデアとして好評をいただきました。

Q. 「マップ作りの詳細が知りたい。」

A. 2 回生が、何か大崎に残るものを作りたいという思いから作成しました。粗削りな部分もたくさんあるため、次年度以降のブラッシュアップに期待です！

和歌山県海草郡紀美野町

テーマ：きみのげんきマップの作成

メンバー 6 人で合同報告会に参加しました。私たちの発表を聞いた学生や外部の方々から大きく二点、評価していただいた点がありました。一つ目は、マップや報告会で使用したポスターが「手書きで温かみがある」ということです。手書きのタッチを残しながら、沢山のイラストを加えたマップは、地域、人に寄り添ったマップだと直接お褒めの言葉もいただきました。二つ目は「地域の方々と密接な



コミュニケーションがとれている」という点です。目的意識をもって現地訪問を重ね、地域の方々のことを第一に考えたマップであることをしっかり伝えることができました。

他の LPP の発表を聞いたことによって、自分たちの活動において良かったところ、改善すべきところが明らかになり、それらについてもメンバー内で話し合うことができました。本 LPP の活動は 2022 年度をもって終了予定ですが、きみのげんきマップ LPP に参加した全員が、今後のためになる合同報告会であると感じました。最後になりましたが、貴重な機会をいただきありがとうございました。

和歌山県海草郡紀美野町小川地区

テーマ：地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生

所属 LPP 以外の活動について触れる機会が少ないため、どこのブースも人が溢れていたように思えます。紀美野町小川 LPP では、報告会への参加人数が少ない分、ポスターのデザインや使用する写真にこだわりを持ち、ポスター用の写真撮影を兼ねて小川地区に足を運んでいるメンバーもいました。

発表は時間通りスムーズに行うことができ、コメントでは、「地域と学生が協力し、互いに主導してプロジェクトを進めているのが魅力的」などといった高評もありました。一年間の活動記録を自分たち自身も振り返ることができる良い機会になったので、来年度も積極的に活動していきたいです。



和歌山県有田市箕島

テーマ：多世代で取り組む ICT 講習を通したまちづくり

いくつかの LPP の報告を聞く中で、学生の発表する姿から、学生が一年間主体的に取り組んできたこと、満足いく活動ができたことを感じ取った。一部の報告しか見ることが出来なかったが、特に那智勝浦町 LPP の報告が印象に残っている。1 回生も自分たちの取り組みを堂々と報告しており、そのような LPP では、学年の枠を超えた連携をとって、普段の活動を行っているのではないかと感じた。美浜町 LPP は、前年度からの継続メンバーがほとんどということで、前年度の活動と比較や、今年度なおよかった点を挙げて発表していたため、成果がよくわかった。どの LPP も一年間の活動、成果・課題がしっかりとまとめられており、わかりやすい報告であった。その中でも充実した活動を行うことができた LPP の報告では、発表内容や今年度の振り返りの充実度が感じられた

箕島 LPP へのコメントシートでは、関係者の方から「ノウハウを文書化してほしい」「スマホ講座の継続が素晴らしい」とのコメントをいただいた。私たちの取り組みをしっかりと評価したコメントをいただくことができ、大変うれしく感じている。その他のコメントから、学生が互いに認め合う姿、他の LPP から吸収しようとする姿が良いと感じた。



和歌山県有田市宮原

テーマ：青みかん（摘果みかん）の価値を上げる

宮原青みかん LPP では、発表順が最後であったため、それまでの間、他の LPP の発表を聞くことができました。発表の際には、同じ報告時間帯に他の発表がなく、ポスターセッションというよりも、大勢の座っている人に対して発表する形となった。発表中は、ポスターを間近で見ってもらうことは難しかったが、より多くの人に私たちの活動を知ってもらえたことは本当によかった。メンバーのみんなも、予想外の展開に緊張しながらも各自の役割を全うしながら、限られた時間内で発表することができた。

コメントシートでは、私たちが大切にしている地域の方との交流などについて多くのコメントがあり、発表やポスターによって私たちの活動を伝えることができ、とても良かったと感じた。来年度で 4 年目となり集大成に差し掛かってくるが、今年度の活動を活かしてもっと青みかんの価値を高めていきたいと思う。



和歌山県日高郡美浜町

テーマ：アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信

美浜町アメリカ村 LPP の発表では、コンテンツ班が中心となり、SNS 班に協力して実施した、昨年 8 月 21 日開催の、地元の小学生を対象として行ったイベントについての報告並びに SNS 班が美浜町の魅力発信のために実施した、Instagram を用いて美浜町の風景をリール動画で発信したことについて発表させていただきました。

毎週会議を重ねてイベントの計画をしていた点や、アメリカ村の情報発信についてなど、多くの方にお褒めの感想をいただき、非常によい発表機会であったと感じます。以下、コメントシートにあった質問への回答を記入します。

Q. 「どうしたら地域を知ってもらえるか（住民に）。どうやってインスタで発信したら、4,000 回数も再生されたのか？工夫点は何があったのか？」

A. 今年度の企画では、子ども向けのイベントにすることを意識しました。子ども向けのイベントを実施するにあたり、安全の観点から保護者の同伴を義務付けました。これにより、子どもだけではなく、保護者(大人の方々)にも知ってもらえると考えました。また、Instagram での発信はいわゆる「映え」意識したことで 4000 回も再生されたのではないかと考えます。

Q. 「なぜ 2 つの班に分かれたのですか。お互いに連携して活動しているのですか。」

A. 情報発信とコンテンツを企画、発掘を同時並行で行うと、負担になると考えたからです。現状では連携が出来ていないので、来年度以降、協働して活動していきたいです。



和歌山県田辺市

テーマ：「林業×地域」の再発見による地域将来ビジョン策定とシナリオプランニング

田辺市龍神村 LPP は昨年度発足したプログラムなので、まず LPP の概要と目的を紹介しました。その後、主な活動を紹介しました。本報告会で一番重きを置いて話したことは、昨年度の活動との違いです。昨年度は新型コロナウイルスの拡大と縮小に振り回され、現地での調査活動や住民の方との交流を十分に実施することができませんでした。今年度はコロナによる活動の制約が緩和され、現地活動が活発にできたこともあり、住民の方々と私たちの交流だけでなく LPP のメンバー同士の交流も盛んに行うことができました。このことを、報告でうまく伝えることができましたと感じています。



コメントシートで寄せられた質問について回答します。

Q. 「龍神村の情報発信はどのように行っていますか。」

A. LPP での情報発信はしていませんが、私たちの活動について紀伊民報で取り上げていただきました。

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

テーマ：地域の文化や風習の体験から地域住民と触れ合い、
地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。

本 LPP の報告では、私たちが那智勝浦町色川地区を拠点に行った活動報告を行いました。今年度は「地域の歴史や文化を学び、色川の暮らしに触れる」というテーマを基に、地域行事、移住者のお宅訪問、地域の交流の場となる飲食店について発表し、那智勝浦町の魅力を伝えることができました。全体の様子としては、様々な LPP 同士の交流が見られ、互いに良い刺激を与え合えたのではないかと思います。コメントシートに質問がなかったので、いただいたリアクションについてのコメントを掲載します。



Q. 「ただ訪問するだけでなく地域と協力して伝統行事に関わっているのが良かった。」

A. コメントありがとうございます。今年度私たちは地域住民の暮らしを中心に実践的な学びをしてきました。来年度も今年度以上に地域の風習に積極的に関わっていきたいと思います。

Q. 「棚田サミットはチャンスだと思うので、PR方法を考えてほしい。」

A. コメントありがとうございます。まだ具体策は考えられていませんがチャンスを逃さないように効果的な PR 方法を考える予定です。

大阪府阪南市

テーマ：古代米を活用した商品開発、PR に関して。「古代米をおいしく食べる」

報告会では、予想以上に多くの方が聞きに来てくださり、私たちの活動を共有することができました。報告では、古代米の PR 活動時において独自にキャラクターを創作し、それを活かした様々なアプローチをしたことを強調しました。また、メンバー自身がこの1年間の活動を振り返ることで、より達成感を得ることができました。古代米について補足説明が欲しいとのコメントを頂



いたので回答いたします。古代米とは古代の稲の品種を色濃く残した稲であり、白米と比較して栄養価が高いことが特長です。具体的な効能としては、

1. ビタミンEでのアンチエイジング
2. γ -オリザノールによる美肌効果
3. アントシアニンでの目の疲労回復 など

他にも様々な効能があり、特に健康に気を遣っている方・ダイエットをしている方に好まれています。

大阪府岸和田市（港湾エリア）

テーマ：港湾エリアにおける持続可能なまちづくり（岸和田港まつりの企画・運営）

今回の報告会において、港湾 LPP ではただの活動報告ではなく、成果と課題をメインで提示することで我々の学びとなるよう意識した。結果的に、聞いてくださった方々からのコメントでは多くの成果と課題に対する意見をいただき、さらなる学びへと繋がった。ポスターの作成段階では、できるだけ多くのメンバーがポスター作成に携わることができるよう、ポスターの項目を細かく分けて役割分担をしたが、かえってポスターを読みづらくさせてしまった。パソコンの画面で見る印象と、実際にポスターに印刷した時の印象の違いが分かった。



また、大浦先生からグルメ開発のコツについての質問を受け、評価をいただくことができた。フィードバック



コメントの中には、「商品開発から販売まで、地元関係者の協力を得ながら一連の流れを学習できたことが良いと感じた。」というコメントがあり、まさに私たちが最も学ぶことができたことのひとつであったため、聞き手に我々の意図が伝わっていたことを実感した。今回の報告会は、活動を行うだけで済ませず、アウトプットを行うことで客観的な評価をいただけた良い機会となったと思う。

大阪府岸和田市

テーマ：景観資源活用による景観意識の向上と地域の賑わい・活性化への貢献

岸和田景観 LPP は、昨年度の春休みに活動した調査の報告と今年度のメインイベントであるウォークラリーの準備から当日に至るまで、そして、参加者の方々が答えて下さったアンケートをクロス分析した結果を報告会の場で発表しました。発表では、お世話になった岸和田市役所の方々が報告会に来てくださり、多くの方々と意見交換等を行うことが出来ました。以下、コメントシートの質問への回答を掲載します。



Q. 「ウォークラリーのコースで、歩くには難しい道があったか気になった。」

A. 歩く中で難しい道は特段なかったが、ゴール地点をショッピングセンターの裏に設定してしまったため、ゴール地点に辿り着けなかった人が多くいたことが課題です。

Q. 「アンケートの回答数が少ないため、サンプルとして不十分ではないか？」

A. 回答者数が少ないためサンプルの信頼度は低いかもしれないが、実際に分析したことによって、予想してなかった結果も見えてきたので、アンケート分析を行って良かったと考えています。

大阪府岸和田市ゆめみヶ丘

テーマ：岸和田市とアドベンチャーワールドが創る未来の Smile とは

発表では、作成したポスターに沿って、活動背景（岸和田市の放置竹林の問題やアドベンチャーワールドとの関係性）や、ゆめみヶ丘で行ったアドプトフォレスト活動などのフィールドワークについて、一年間の成果（企画したツアー・商品について）を報告しました。コメントシートでは「岸和田市とパンダに関係があることを初めて知った」という意見が多くあり、多くの方に岸和田



市とアドベンチャーワールドの関係性や、岸和田市の観光的価値を理解いただけただけのではないかと感じます。当日は市役所の川崎様もお越しく下さり、お褒めの言葉をいただきました。以下、コメントシートへの回答を掲載します。

Q. 「パンダの食べ残しの竹を活用するという観点がおもしろかったです。この竹を商品化するに当たって、衛生面や強度に関して問題がないのか気になりました。」

A. 竹は商品や加工体験に使用する前に洗浄・乾燥させ、汚れや油分を落とすことを想定しています。また、竹は丈夫で（天然の抗菌成分が含まれるため）衛生的だといわれているため、カビ対策・紫外線対策などの適切な加工をすれば、他の素材に比べ、長持ちするのではないかと考えます。

和歌山県有田郡有田川町

テーマ：学生との協働による棚田保全・集落支援活動

棚田ふぁむからは3人のメンバーで参加しました。発表順は、1日目の最後でした。発表は普段お世話になっている沼地区の方や、県庁の方も発表を見に来ていただきました。発表後には「今年度も1年間ありがとう、上手くふぁむの活動をまとめてあった」「沼地区の魅力も端的にまとめられており分かりやすかった」と労いとお褒めの言葉を頂き、嬉しかったです。コメントシートでも、色々な感想を頂きました。ありがとうございました！ ひとつ質問を頂いたため、回答させていただきます。



Q. 米の天然乾燥がなぜ美味しくなるのか知りたくなった。

A. 機械乾燥だと短時間で高温乾燥させるためお米に負担がかかります。天日干しだと太陽の光でじっくり乾燥させるため時間はかかりますが、そのぶんお米にストレスがかからず、お米本来の味が引き出せるため、美味しく仕上がります。

広島県広島市および香川県さぬき市

テーマ：瀬戸内カレッジ 2022

今年度の瀬戸内カレッジへの参加は、広島市班とさぬき市班の2チームであった。今年度のLPP参加募集でメンバーが確定して以降、それぞれの班で活動してきた。瀬戸内カレッジの大きな特徴として、和歌山大学観光学部のLPPプロジェクトである前に、他大学と共同で行うコンペ形式のプロジェクトであることが挙げられる。そのため、12月に行われた瀬戸内カレッジの最終報告会では、広島市班とさぬき市班は別のチームとして、各々の発表を行った。



しかし、2月に行われた和歌山大学でのLPPの合同成果報告会では瀬戸内カレッジとして一括りにされ、実質2班の活動報告でありながら、与えられた時間は他のLPPと同じ5分であり、内容を充実させることよりもまず制限時間に納めることを最優先にしなければならなかった。結果として、なんとか間に合わせることはできたが、自分たちの活動内容を十分に伝えることができたとは言い難い。加えて、時間に間に合わせるために説明が常に1.5倍速のようになってしまい、それでいて残り5秒ほどだったので、時間の余裕は全くと言っていいほどなく、本当に伝えたかったところが伝わったのかも怪しいところである。ただ発表形式は良かったため、最後の1班だけの発表を瀬戸内カレッジに割り振ってみても面白いと感じた。

和歌山県有田郡広川町

テーマ：ツギー谷のお花畑の活用を通じた津木地区の活性化を考える

広川 LPP からは、2 名で合同報告会に参加させていただきました。当日は多くの方に私達の発表を聞いていただき、広川町の魅力や私達の活動について深く知ってもらうことができましたと考えています。広川 LPP は今年度をもって活動を終了しますが、集大成として多くの方々前で成果を発表できたことはとても有意義なことであったと思います。他ブースの発表についても、すべてのグループの発表がとても質の高いものであり、私たち自身も勉強になりました。LPP の活動を通して得た経験・知識はこれからの様々な場面において役立つものであると考えています。



各ブースについては、それぞれが聴き手に対して、それぞれが「伝える」ための工夫を凝らしており、発表者、聞き手双方にとって有意義な時間になったと考えています。

和歌山県和歌山市

テーマ：雑賀崎の観光スポット（レモンの丘）整備と活用のための情報発信

雑賀崎 LPP は、メンバー 7 人で報告させていただきました。報告では 2 度の現地訪問、レモンの丘・空き家利用のイベント、今後の展望などを発表し、学生だけでなく、それぞれの地域の関係者の方々にも興味関心を持っていただきました。



コメントシートでは、非常に多くの方から反響をいただきました。中でも、特に多かったコメントは、ポスターのデザインに関するコメントと、L 活としての活動に興味を持ったというものでした。

ポスターについては、担当の学生が雑賀崎のイメージを基に作成しました。「かわいい」「写真が多く使われていて見やすい」などの意見をいただきました。

私たちは、枠に囚われずに地域に貢献出来るという点が L 活の良い点だと考えています。学生主体となって自分たちで地域の人と話し合いを重ね、ゴールに向かっていくことを今年度経験できたことは、今後の L 活の活動にも繋がっていくと考えています。このような L 活の制度については、ディスカッション中にも多くの質問をいただき、L 活と L ゼミの違いも詳しく知ることができました。

報告会全体を通して、他の参加者から多くの刺激を得たため、今後の活動に活かしていきたいです。

地域連携プログラム（LPP）の沿革

■2008～10年度（平成20～22年度）

地域インターンシップ・プログラム（通称 LIP ※2012 年度に改称）は、2008 年観光学部の設置とともにスタート。観光学部より和歌山県下の自治体への協力要請を行い、各教員が担当する自治体との協議を重ね、早いプログラムでは 2008 年度中に、遅いものでも 2009 年度中にはプログラムの実施に至った。

- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：
6 件／42 名（2008）、8 件／46 名（2009）、3 件／18 名（2010）

■2011 年度（平成 23 年度）

- ・地域連携担当の配置
- ・地域インターンシップ実施要項の整備
 - ◇地域（自治体）からプログラム内容について提案を受け付ける「地域提案型」と教員の地域との共同研究をベースとした「申請型」の 2 つのプログラムを設定。
 - ◇主要な活動対象エリアを、和歌山県内に加えて大阪南部の自治体（岬町、阪南市、泉南市、田尻町、泉佐野市、熊取町、貝塚市、岸和田市）にまで拡大。
- ・地域提案募集：5 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：4 件／24 名

■2012 年度（平成 24 年度）

- ・名称変更：RIP から LIP へ改称
- ・実施要項の改訂
 - ◇申請型については、主たる活動エリアを和歌山県内と大阪南部以外でも可とした。
- ・地域提案募集：5 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：11 件／80 名

■2013 年度（平成 25 年度）

- ・地域連携の所管が観光教育研究センター（現：観光実践教育サポートオフィス）となり、担当者を配置。
- ・LIP の制度改善を図るため、活動実績のある自治体の担当者にヒアリング調査を実施。
- ・LIP の認知度や参加意識を明らかにするため、学生対象のアンケート調査を実施。
- ・地域提案型プログラムの質向上のため、活動実績のある自治体や和歌山市周辺の自治体を廻り、LIP の評価の聞き取りや新制度についての周知活動を実施。
- ・地域提案募集：4 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：5 件／73 名

■2014 年度（平成 26 年度）

- ・LIP 周知活動の一環として、2014 年度活動の報告書を作成（以後継続して作成）。
- ・地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付

- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：10 件／139 名

■2015 年度（平成 27 年度）

- ・LIP 周知活動の一環として、2015 年度活動の報告書を作成。なお、報告書には、2008～2015 年度までの LIP に関するデータを所収（以後継続して所収）。
- ・地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：15 件／191 名

■2016 年度（平成 28 年度）

- ・LIP 周知活動の一環として、2016 年度活動の報告書を作成。
- ・LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施（以後継続して実施）。
- ・地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：21 件／227 名

■2017 年度（平成 29 年度）

- ・LIP 周知活動の一環として、2017 年度活動の報告書を作成。
- ・LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：19 件／217 名

■2018 年度（平成 30 年度）

- ・LIP 周知活動の一環として、2018 年度活動の報告書を作成。
- ・LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：13 件／190 名

■2019 年度（令和元年度）

- ・LIP 周知活動の一環として、2019 年度活動の報告書を作成。
- ・LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・LIP の質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LIP 合同活動報告会」を実施。
- ・地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：14 件／194 名

■2020 年度（令和 2 年度）

- ・LIP 周知活動の一環として、2020 年度活動の報告書を作成。
- ・LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。

- ・地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：16 件／209 名

■2021 年度（令和 3 年度）

- ・LIP 周知活動の一環として、2021 年度活動の報告書を作成。
- ・LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・LIP の質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LIP 合同活動報告会（オンライン）」を実施。
- ・地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 1 月に送付。活動内容の質的向上のため、公募タイプのうち 2021 年度新規提案募集分から、地域側から事前に担当教員の希望を受け付け、教員が承諾したものをプログラム化することとしたため。
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：21 件／231 名
- ・2022 年度（令和 4 年度）から、「地域連携プログラム（Local Partnership Program, LPP）」へと名称・枠組みを変更することとなり、制度設計の見直し・各所への通知などを実施。

■2022 年度（令和 4 年度）

- ・「地域連携プログラム（Local Partnership Program, LPP）」へと名称・枠組みを変更。
- ・LPP 周知活動の一環として、2022 年度活動の報告書を作成。
- ・LPP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・LPP の質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LPP 合同活動報告会」を実施。
- ・地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 1 月に送付。LIP から LPP への移行期間とするため、2022 年度は新規プログラム（L ゼミ地域公募タイプ）の募集は実施せず、2021 年度からの継続プログラムおよび L ゼミ教員申請タイプ、L 活を実施した。
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：19 件／210 名

【これまでの LIP/LPP 活動地域と活動テーマ一覧】

市町村名	活動年度	活動テーマ
和歌山市	2009	四季の郷公園周辺調査等
	2010	四季の郷公園と周辺農地を利用した農業観光の振興、および中心市街地との連携による活性化調査
	2011	お城を中心としたまちなか回遊性の創出
	2014	和歌山市民の森づくり事業
	2015・16	和歌山公園動物園（通称：お城の動物園）の環境エンリッチメントを通じた観光活用
	2016	地域資源を活用した、見どころマップの作成とまちあるきの実施（山東地域）
		名勝「和歌の浦」の魅力発信
		和歌山市立伏虎中学校の閉校記念誌づくり
	2016・17	観光資源を活用した観光振興の体験と調査・研究（和歌山城におけるおもてなし忍者による観光振興を通じて）
	2017	和歌山公園動物園（通称：お城の動物園）の地域資源としての観光活用～和歌山公園動物園の今後とリニューアルの検討～
2021-22	加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興	
2022	雑賀崎の観光スポット（レモンの丘）整備と活用のための情報発信（L活）	

市町村名	活動年度	活動テーマ
岩出市	2015	観光地の活性化と情報発信
	2018	SNS を利用した地域資源再発見と訪れてみたくなるコンテンツ作り
	2019	ねごろ歴史の丘巡りスタンプラリー帳作成
	2020-22	道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査及び利用促進企画

市町村名	活動年度	活動テーマ
紀の川市	2009	青洲の里施設内で実習および農家民泊体験、地域住民との意見交換
	2010	「細野溪流キャンプ場」集客向上と地域活性化の検討
	2011	細野溪流キャンプ場を起点とした地域活性化
	2012-16	紀の川市地域活性化
	2018-22	紀の川スイーツの開発

市町村名	活動年度	活動テーマ
かつらぎ町	2008	花園ふるさとセンターの有効活用に関する調査研究
	2012	かつらぎ町日帰りプランの作成
		都市近郊中山間地域における交流型農業への展開可能性を探る

市町村名	活動年度	活動テーマ
橋本市	2009	青年の家やどりの運営体験およびリニューアルプランの検討

市町村名	活動年度	活動テーマ
海南市	2020-22	交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発

市町村名	活動年度	活動テーマ
紀美野町	2014	地域活性化にむけた調査研究（現地ヒアリング）
	2015-17	地区×学生による継続可能な地域活性化にむけた寄り添い型支援体制の構築と観光・交流情報発信
		世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営（認知症カフェでの実践を通じて）
	2018	地区×学生による知られざる歴史掘り起こしと観光・文化・交流情報発信
	2018・19	世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営（コミュニティカフェ等での実践を通じて）
	2019-22	地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生
2020-22	きみのげんきマップの作成	

市町村名	活動年度	活動テーマ
有田市	2013	みかん産地の農家の今後を考える（有田地域みかん農家経営継続課題調査）
		有田地域における魅力的な居住環境を考える（有田地域の居住地選定要因に関する調査）
	2014	地元小学生が見つけた地域の資源に対する傾向・特性調査とその活用提案
	2016	魅力ある図書館づくり—新図書館開館にむけて—
		空き家活用による地域活性化プロジェクト
	2017	市民が集う市民会館づくり—新市民会館開館にむけて—
	2017-18	地域で働く人の魅力を子どもたちに伝える
	2019	箕島の魅力発信
2020-22	箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見	
	青みかん（摘果みかん）の価値を上げる	

市町村名	活動年度	活動テーマ
有田川町	2008・09	観光スポット調査（鉄道フロムナード、あらぎ島・清水温泉周辺）、および各種施設における就業体験
	2010	観光スポット調査（観光ブドウ園ほか）、および各種施設における就業体験と町内宿泊施設におけるモニター宿泊
	2011	観光スポット調査、および各種施設（鶏卵牧場ほか）における就業

		体験と町内宿泊施設におけるモニター宿泊
	2012・13	学生との協働による棚田保全活動体制の構築に関する基礎調査
	2014	しみず体験・学習プログラムの開発
	2014-18	学生との協働による継続的な棚田保全活動体制の構築
	2019-21	学生との協働による継続的な棚田保全活動（棚田ふぁむ）
	2022	学生との協働による継続的な棚田保全・集落支援活動

市町村名	活動年度	活動テーマ
湯浅町	2009	町内主要施設の視察と集客イベントへの活用法の検討、および有力事業者への観光誘客に関わる聞き取り、イベントにおける JAZZ バンド演奏会の開催

市町村名	活動年度	活動テーマ
広川町	2014-19	津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える
	2020-21	ソーギー谷のお花畑の活用を通じた津木地域の活性化を考える
	2022	ソーギー谷のお花畑の活用を通じた津木地域の活性化を考える（L活）

市町村名	活動年度	活動テーマ
由良町	2014	観光地の新たな魅力発見

市町村名	活動年度	活動テーマ
日高町	2016・17	地域資源の自慢を後世に引き継ぐと共に経済効果のある参加型イベントの企画立案を共に考える

市町村名	活動年度	活動テーマ
日高川町	2008	小学生の農村生活体験実習受入のための基礎調査
	2009	子ども農山漁村交流プロジェクト推進のための学生サポーターおよび課題発見
	2012	日高川町における祭事を中心とした伝統文化と地域活性化についての調査
	2017-19	体験教育旅行&夏学習～都会と大自然の出会い（かつらぎ町も含む）

市町村名	活動年度	活動テーマ
美浜町	2017	日の岬・アメリカ村の歴史的資源等を活用した観光とふるさと教育
	2019	カナダミュージアムにおけるミュージアム機能の強化
	2020-22	アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信

市町村名	活動年度	活動テーマ
みなべ町	2012	みなべ町の新たな魅力発掘・発信事業（みなべ観光協会事業）

市町村名	活動年度	活動テーマ
田辺市	2008	秋津野ガルデン附設レストラン「みかん畑」利用客の観光行動アンケート調査、及び田辺市広域市町村圏の関係者との意見交換
	2009	農山村における UJI ターン者と地元住民との連携
	2012	和歌山県版・農山村ワーキングホリデーのシステム構築
	2017	ほっとスポット温川プロジェクト

市町村名	活動年度	活動テーマ
上富田町	2008	観光資源調査と地域の農・商・工関係者との意見交換会
	2017	地域資源を活用した“おどろきと感動”の地域づくり
	2018・19	笑顔が広がる美しい里づくり

市町村名	活動年度	活動テーマ
すさみ町	2008	各種体験観光施設の調査と関係者への聞き取り

市町村名	活動年度	活動テーマ
串本町	2017	マグロ料理で観光PR

市町村名	活動年度	活動テーマ
那智勝浦町	2016-18	地域の文化や風習、そこで暮らす人々と直にふれあいながら、これからの地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える
	2019	地域の文化や風習の体験、獣害対策、農作業、冊子作りを通じて地域の方々と触れ合い、地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える
	2020-22	地域の文化や風習の体験を通じて、地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。（興味関心に応じて）地域をフィールドにそれぞれの知見を深め、価値を創出していく。

市町村名	活動年度	活動テーマ
新宮市	2020-21	新宮市高田区における観光モデルコースの造成

市町村名	活動年度	活動テーマ
太地町	2009	移民関連勉強会、および地域住民、町職員との意見交換
	2012	地域資源として移民輩出の歴史を活かした観光の活性化を考える

市町村名	活動年度	活動テーマ
岬町	2012	「道の駅」建設に伴う検討委員会
	2015	マップを手にウォーキングをしたくなる気持ちを沸き立たせる「まち歩きマップ」の作成
	2016	岬フィールドミュージアム構想
	2017	着地型観光による地域活性化の取り組み
阪南市	2016	産業観光ワークショップ HANNAN OSAKA cotton project
	2018・19	地方創生にかかる地場産物商品に関する調査・研究、デザイン考案等
	2020-22	古代米を活用した商品開発、PR に関して。「古代米をおいしく食べる」
田尻町	2015	君が見つけたじりの魅力ー出会いと交流で創る健幸のまちー
熊取町	2015	第4回熊取ふれあい農業祭
	2016	第5回熊取ふれあい農業祭
	2017	第6回熊取ふれあい農業祭
岸和田市	2021-22	港湾エリアにおける持続可能なまちづくり
	2021-22	景観資源活用による景観意識の向上と地域の賑わい・活性化への貢献
	2021-22	岸田和市とアドベンチャーワールドが創る未来の smile とは

市町村名	活動年度	活動テーマ
岩手県奥州市 および和歌山県	2012	故郷（ふるさと）への誇りを取り戻すためのグリーン・ツーリズム
	2013	農村ワーキングホリデーを通じた農村再生の可能性を探る
	2014-21	農村ワーキングホリデーを活用した都市農村交流の「鏡効果」と農村再生手法としての可能性の検証
北海道幕別町	2014・15	地域の観光に係る調査研究（観光と地域のあり方についての調査研究及び観光資源の掘り起こし等）
富山県南砺市	2015	五箇山における持続可能な観光の実現に向けた実証調査
長野県飯田市	2015・16	道の駅遠山郷を核とした地域活性化
宮崎県	2016	みやざき観光コンベンション協会からの依頼に基づいた同県「波旅宮崎」キャンペーンのより効果的な展開に対する提案、提言作成
山口県岩国市および愛媛県新居浜市	2020	瀬戸内カレッジ 2020
岡山県津山市および香川県坂出市	2021	瀬戸内カレッジ 2021
広島県広島市および香川県さぬき市	2022	瀬戸内カレッジ 2022

地域・団体名	活動年度	活動テーマ
JA いずみの管内	2011・12	JA 直営型農産物直売所を拠点とした都市農村交流の推進
わかやま産業振興財団	2015・16	特産果樹がもたらす共創価値の創造（新たな健康・産業づくり）
公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合	2017	公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合が主催する国際・第38回全日本マスターズ陸上競技選手権大会においてスポーツを通じて、地域の人びとや海外競技者との国際交流
和歌山県	2018	「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」、大会参加者に対する観光ツアーの開発（和歌山県全域）
	2019	「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」における、観光ツアー同行を通じた観光業務の実践（和歌山県全域）
	2020-21	「紀の国わかやま文化祭2021」学生による文化の魅力発信（和歌山県全域）
	2021-22	「林業×地域」の再発見による地域将来ビジョン策定とシナリオプランニング（田辺市龍神村）

2022 地域連携プログラム活動報告書

令和5年3月31日発行

発行 和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930

印刷 井手印刷株式会社

